

資料2-3

令和6年度 入札・契約、総合評価の実施方針(案) 〔コンサルタント業務等〕

参考資料(継続項目)

令和6年2月28日



国土交通省 関東地方整備局

【目次】



令	和6年度 入札・契約手続きの実施方針 継続項目・・・・・・	2
1.	品質確保と担い手の育成・確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
2.	技術力が十分発揮できる競争環境の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24
3.	事務手続きの効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	36
4.	評価点配分表、評価項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	45
5	宝施状況データ整理集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67



1. 品質確保と担い手の育成・確保

- 〇確実な品質確保対策の実施
 - 1-① 実施能力を評価した選定【R4.8~】
 - 1-② 賃上げを実施する企業に対する加点措置【R4.2~】
 - 1-③ 事業促進PPP業務の受注制限、常駐・専任緩和【R3.1~】
 - 1-④ 事業促進PPP業務の業務指導実績のマネジメント経験認定【R3.8~】
 - 1-5 事業促進PPP業務の管理(主任)技術者経験の加点評価【R3.8~】
 - 1-⑥ 履行確実性評価、低入札価格調査における対象業務の拡大【H25.10~】
 - 1-⑦ 技術審査段階における条件明示チェックシートの提示【R1.8~】
- 〇担い手(地元企業・若手技術者等)の育成・確保
 - 1-8 適切な地域要件の設定【R2.8~】
 - 1-9 災害協定等に基づく活動実績の評価対象の拡大【R3.8~】
 - 1-⑩ 業務実績等の評価対象期間の延長(休業考慮)【H28.8~】
 - 1-⑪ 若手技術者の活用を評価【R5.8~】
 - 1-⑫ 組合せ評価(国土交通省登録資格)【R5.4~】

2. 技術力が十分発揮できる競争環境の確保

- 2-① 分離発注の徹底
- 2-② 拡大型プロポーザル方式の導入【H25.10~】
- 2-③ 業務成績評点、優良業務表彰等の評価基準変更【R3.8~】
- 2-④ 業務実績の評価対象期間の見直し【H28.4~】
- 2-5 海外インフラプロジェクト実績認定【R3.4~】
- 2-⑥ 手持ち業務量(金額)の変更【R3.4~】
- 2-⑦ 照査技術者の配置要件の見直し【R4.8~】
- 2-8 テレビ会議システムを活用したヒアリングの実施(試行)【R4.4~】
- 2-9 発注者支援業務等の継続教育取組実績CPDを評価【R5.8~】



3. 事務手続きの効率化

- 3-① クラウドを活用した資料閲覧 -資料閲覧の効率化-【R2.9~】 継続業務の発注時の資料閲覧について【R5.1】
- 3-② 入札説明書等の記載の簡素化【H28.8~】
- 3-③ 入札公告資料の合理化【R2.4~】
- 3-④ 一括審査方式の導入【H28.8~】
- 3-5 技術者評価を重視した選定(更なる簡素化)【H27.4~】
- 3-⑥ 簡易な参加表明書を用いた審査の導入【H30.8~】
- 3-⑦ 技術提案書の無効通知の追加【R4.4~】
- 3-8 実施能力を評価した選定(更なる簡素化)【R1.8~】
- 3-9 災害対応における随意契約、通常指名競争の活用
- 3-⑩ 入札結果及び契約内容等に係る情報閲覧の効率化【R2.10~】

4. 評価点配分表、評価項目

- 4-1)「土木関係建設コンサルタント業務、地質調査、測量」
- 4-②「建築関係建設コンサルタント業務」
- 4-③「補償関係コンサルタント業務」

5. 実施状況データ整理集

- 5一① 建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況
- 5-② 品質確保対策の実施状況
- 【参考】建設コンサルタント業務等の入札契約方式の概要



1. 品質確保と担い手の育成・確保

1-1)継続実施能力を評価した選定(実施能力評価拡大型)(試行)



【趣旨】関東地方整備局発注業務の受注実績が無い企業の参入機会の確保及び不調対策を目的として、企業・技術者の実績評価を緩和し技術的課題を評価する評価方法の試行

【対象】総合評価落札方式(簡易型1:1)で発注する業務のうち、発注方式選定表青部記載の業務の種類において、本 試行を<mark>選択することができる。</mark>

【概要】関東地方整備局発注業務の受注実績が無いことにより参入が困難であった新規参入者の参入を促し、次回の業務参入にあたっての実績として活用してもらうことにより、<mark>継続的な業務の担い手企業</mark>の裾野を広げることを期待し、<mark>新規参入者の増加による不調対策</mark>を図る【R4.8~】

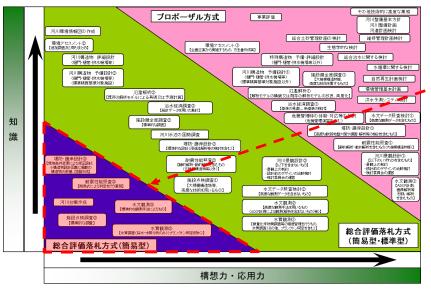
業務対象

〇実施能力評価拡大型の試行対象

土木コン、測量、地質の3業種における総合評価(簡易型1:1)のうち、右表に記載されている業務の種類において下記事項を参考に選択する。

- ・不調・不落が多い業務
- ・地域の担い手確保が必要な業務

発注方式選定表



事業名	業務の種類	•
\ *	道路詳細設計(修正)②【一般】	
道路	交差点設計(一般)	
事	環境調査③【常観等定型的調査】	
業	交通量観測	
	各種資料作成他(一般的な水文調査含む)	l
	堤防・護岸設計③【現地条件変更による修正設計、小構造物設計図集に掲載の	
河	構造物の数量、図面作成】 耐震性能照査③【簡易式による判定を行う業務】	ŀ
ij	一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一 一一	ŀ
事	川口中版 TF	
業		
	小貝観測で1、小貝調査(珠水・小貝ガガのみ)(フランクトン同定を味く)】 各種台帳作成②【地形測量を主とするもの】	
	復旧測量※	
	路線測量※	
	水文観測③【標準的な観測手法によるもの】	
	基準点測量※	
	河川測量※	
測	現地測量(地形測量) ※	
量	用地測量※	
調査	水準測量※	
且	地籍測量②【国土調査法第10条2項による作業を除く】	
	定期縦横断測量※	
	地図編集	
	深浅測量②【標準的なもの】	
	既成図数値化	
	一筆調査(E工程)	
	※印の工種は、 三次元点群測量 を含む。	Ì
地	ボーリング調査(支持層確認、改良チェック等)	Ì
質	地下水調査(観測)	
調	計器設置及び観測作業(設置・観測のみ)	
査	地盤環境調査(採取、分析)	

※発注者責任を果たすための今後の建設生産・管理システムのあり方に関する懇談会業務・マネジメント部会(令和4年度第1回)資料から加筆修正関東地方整備局では、価格競争方式を総合評価落札方式(簡易型)で運用

1-1)継続実施能力を評価した選定(実施能力評価拡大型)(試行)



- ○評価基準は、現行の総合評価(簡易型)(実施能力評価)を基に、評価項目「成績・表彰」を省略
- 〇業務経験、地域性ー地理的条件の評価項目<mark>を優位に評価し、ウェイトを上方修正</mark>
- 〇参加表明書と技術提案書を<mark>同時に提出する方式</mark>とし、<mark>入札手続き期間の(約20日)短縮と資料作成の省力化</mark>を図る

評価方法イメージ

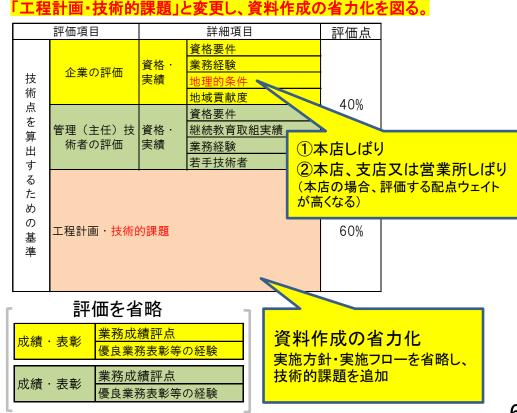
〇現行:総合評価落札方式(簡易型1:1)に おける参加資格要件の評価

総合評価落札方式(簡易型1:1)

評価項目		(回勿至・・	詳細項目	評価点
			資格要件	
入札		資格·実績	業務経験	
参	企業の評価		地理的条件	50%
加	正来の評価		地域貢献度	30%
者を		成績・表彰	業務成績評点	
指 名			優良業務表彰の経験	
す			資格要件	
る た		資格·実績	継続教育取組実績	
め		更恰・夫領	業務経験	50%
のサ	投制省の計画		若手技術者	30%
基準		成績·表彰	業務成績評点	
'			優良業務表彰等の経験	

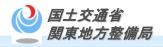
技術点を算出するための基準	技術者の評価	資格·実績	資格要件 継続教育取組実績 業務経験	50%
	技術者の評価	成績·表彰	若手技術者 業務成績評点 優良業務表彰等の経験	50%
	実施方針・実施:	フロー・工程言	+画・その他	50%

○実施能力評価拡大型(試行):参加表明書、技術提案書の提出を同時提出とする。企業・技術者の実績評価を緩和(成績・表彰の評価を省略)実施方針・実施フロー・工程計画・その他の項目については、



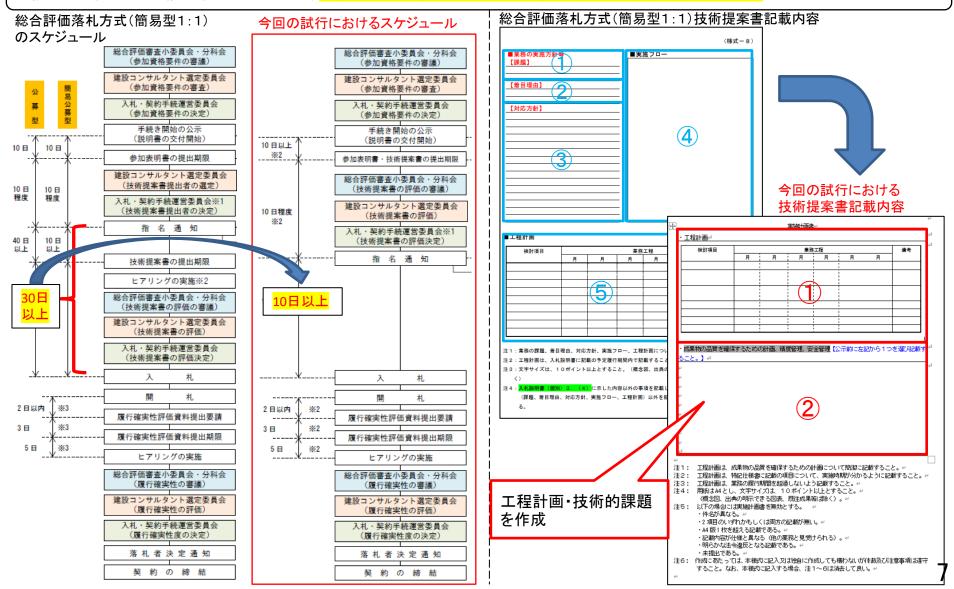


1-1継続実施能力を評価した選定(実施能力評価拡大型)(試行)



○事務手続きの軽減(スケジュールの短縮と作成資料の省力化)

参加表明書・技術提案書の同時提出で指名通知から入札まで約20日の入札手続期間の短縮を図る技術提案書の記載内容については、5項目から2項目まで省略し参加者の作成資料の省力化を図る



1-2継続総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置 ()



総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置、ペナルティの流れ

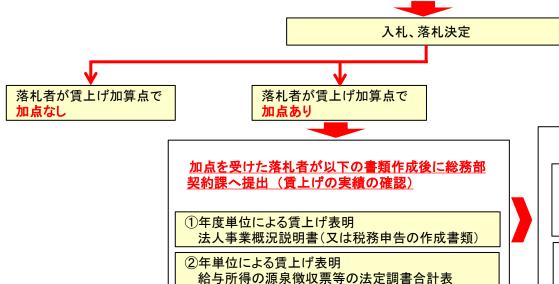
適用対象: 令和4年4月1日以降に契約を締結する、総合評価落札方式によるすべての調達。

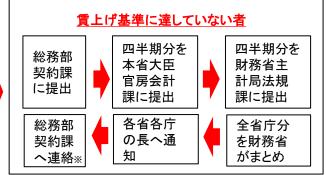
但し、令和4年2月1日以降に入札・契約手続運営委員会に諮る調達案件とする。

入札公告(公示)

「従業員への賃金引上げ計画の表明書」を入札参加者から提出を受けたことをもって評価(賃金引き上げ表明は①事業年度※単位又は②年暦単位での表明) ①大企業 3%以上 ②中小企業1.5%以上 ※①事業年度は契約を行う予定の年の4月以降に開始するもの

加算点=従来の加算点+賃上げ加算点(加算点の5%以上) → (例)施工能力評価型 II 型···従来の加算点40点+賃上げ加算点3点=加算点合計43点(3点/43点=6%)





※契約担当官等から、賃上げ基準に 達していない企業に減点措置の通知

契約担当官等から通知された日から1年間 国の総合評価落札方式の調達の全てに対して加点 より大きな割合の減点(加点に1点を加えた減点)

<u>1−②継続</u>総合評価落札方式における賃上げを実施する企業に対する加点措置 <u>◎ 図土交通省</u> 関東地方整備局

関東地方整備局の建設コンサルタント業務等の総合評価落札方式における賃上げを実施する 企業に対する加点措置

■適用対象

令和4年4月1日以降に契約を締結する、総合評価落札方式によるすべての業務但し、令和4年2月1日以降に入札・契約手続運営委員会に諮る調達案件とする。

- ■関東地方整備局の建設コンサルタント業務等における総合評価方式別の総合評価落札方式における賃上げを実施 する企業に対する加点措置
 - ・技術点の5%以上の整数とし以下のとおりとする。
 - ・従来の技術点に含めて加算を行い、その後の技術評価点の算出は従来と同じとする。 技術評価点=60点※× 技術点(賃上げ加算点を含む) ※建築コンは55点 技術点満点(賃上げ加算の配点を含む)
- ①<u>総合評価落札方式(標準型1:3、簡易型1:1(実施能力評価型))</u> 技術点満点が200点の場合 → 従来の技術点200点+賃上げ加算点11点とし合計211点(11点/211点=5%)
- ②<u>総合評価落札方式(簡易型1:1(①、③及び④を除く))</u> 技術点満点が100点の場合 → 従来の技術点100点+賃上げ加算点6点とし合計106点(6点/106点=6%)
- ③<u>総合評価落札方式(発注者支援業務等)</u> 技術点満点が80点の場合 → 従来の技術点80点+賃上げ加算点5点とし合計85点(5点/85点=6%)
- ④<u>総合評価落札方式(建築関係コンサル)</u>技術点満点が55点の場合 → 従来の技術点55点+賃上げ加算点3点とし合計58点(3点/58点=5%)
- ・賃上げの実施に関する評価点は、履行確実性評価の対象としない。

1-3継続事業促進PPP業務の常駐・専任緩和



事業促進PPP業務における常駐・専任の緩和【継続】

【趣旨】事業促進PPP業務の活用による、事業の円滑な促進、確実な品質確保

【対象】平常時の大規模事業等に導入する事業促進PPP業務

【概要】高い技術力や経験を有する企業の参入を促すため、技術者の専任・常駐の緩和の試行を実施

【R2~試行】

【常駐·専任緩和】

本省がイドライン	常駐	専任		関東試行	常駐	専任
管理技術者	必要なし	必要なし必要		管理技術者	必要なし	必要なし
主任技術者	必要			主任技術者	必要 (いずれかで最低 1名)	必要なし
担当技術者	必要	必要		担当技術者		必要なし

専任:必要なし(手持ち業務量を2億5件以下に制限、低入札の手持ち業務がある場合は参加不可)

常駐:主任・担当技術者のうち、最低1名は必須(常駐者の途中交代可)

- ※発注者の判断で常駐・専任を求めることは可
- ※常駐・専任を緩和する場合は、管理技術者出席の事業調整会議の定期開催を必須とする
- ※主任技術者は専任を求めないが、本業務を最優先することとし、その他業務の管理技術者になることは認めない

10

1-3継続事業促進PPP業務の常駐・専任緩和



【趣旨】事業促進PPP業務の活用による、事業の円滑な促進、確実な品質確保、更なる競争性の確保

【対象】事業促進PPP業務(事業監理業務)

【概要】発注者支援業務等の受注制限を緩和

⇒ 受注制限の対象を「発注者支援業務等」から「調査設計資料作成業務」に緩和

受注制限緩和の経緯

従前(~R1.12)

工事: 不可(設計・施工分離原則)

発注者支援業務等は可 設計業務等は不可

事業促進PPP業務の活用による、事業の円滑な促進、確実な品質確保に資する

より高い技術力や経験を有する企業の参入促進のため、受注制限を緩和

緩和①(R1.12~)

工事 : 不可(設計・施工分離原則)

業務 : 発注者支援業務等は不可 設計業務等は平可

■透明性を確保し、他の参加者との公平性を担保 → 試行的に発注者支援業務等を一律受注制限

過度な制限とならないよう受注制限の対象を精査

現在

緩和②(R3.1~)

工事:不可(設計・施工分離原則)

業務:調査設計資料作成業務(行政事務補助)は不可

設計業務等、その他の発注者支援業務等は可

さらなる緩和対象(受注制限対象の精査)の考え方

- ○発注者支援業務等側で、業務の受注制限がかかっていないこと
- ○業務内容、業務履行環境上、業務の詳細な発注計画・内容を知る可能性が低いこと

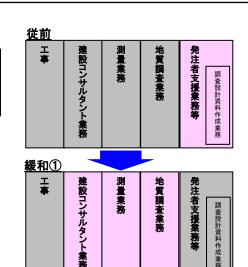
【参考】「国土交通省直轄の事業促進PPPに関するガイドライン」より

2.7公平中立性

事業促進PPPの工区内の業務、工事の受注者選定では、公平中立性に留意することが必要である。

4.2課題・留意事項

<u>事業促進PPPの受注者が継続的に業務・工事に携わることを過度に制限しない</u>発注方式や条件等について検討が必要である。





発注者支援業務等とは

- 〇発注者支援業務
- 〇公物管理補助業務
- 〇用地補償総合技術業務
- 〇行政事務補助業務
- ※「調査設計資料作成業務」は行政事務補助業務に含まれる
- 〇工事監督支援業務に準じる業務

受注不可

1-④継続指導実績の業務実績認定 -事業促進PPP業務-



【趣旨】 品質確保、技術力を重視した評価(高いマネジメント力を有する技術者の活躍機会の拡大)

【対象】 総合評価落札方式、プロポーザル方式で発注する業務

【概要】事業促進PPP業務※の管理技術者で、同種・類似業務の指導した実績をマネジメント経験として認定

事業促進PPP業務以外の業務実績を有さない場合にも、他の設計業務等への参加が可能

認定条件

<u>過去10箇年度+公示日まで</u>に<mark>事業促進PPP業務※</mark>の<u>管理技術者</u>の立場で、

<mark>同種・類似業務の指導経験</mark>がある(事業促進PPP業務発注者が指導実績証明を発行)

ただし、上記の事業促進PPP業務の平均業務成績評定が下記※に定める点数以上の場合に限る

『高いマネジメントカ』を評価



他の建設コンサルタント業務等に管理(主任)技術者で配置する場合



同種・類似業務の業務実績(マネジメント経験)を有するものとする。

【マネジメント経験者の要件】

- ①建設コンサルタント登録規定第3条の一に該当する入札説明書(個別)に記載する部門の技術管理者
- ②地質調査業者登録規定第3条の一に該当する技術管理者
- ③地方建設局委託設計業務等調査検査事務処理要領第6に該当する主任調査員相当以上

十 現在(R3.8追加)

【加点評価の条件】配置予定技術者(管理(主任)技術者)が以下の3要件を満たす場合に認定

- ①同種・類似業務実績が無い
- ②過去10箇年度+公示日までに事業促進PPP業務の管理技術者の立場で、同種・類似業務を指導した経験(マネジメント経験)を有し、
- ③②の業務成績評定点(複数有する場合は平均点)が右表青枠の業務成績評価区分の範囲に入る

- ※ 公示日から過去10年度間に事業促進PPP業務の
 - 管理技術者の立場で、同種・類似業務を指導した
 - 事業促進PPP業務の業務成績評定点(複数有する場合は 平均点)が78点以上の場合に限る。

半均点	平均点)が78点以上の場合に限る。						
配点	ミウェイト	業務成績評価区分					
1	100%	80点以上					
2	80%	79点以上~80点未満					
3	60%	78点以上~ 79 点未満					
4	40%	77点以上~78点未満					
⑤	20%	76点以上~77点未満					
6	Ο%	60 占以上~76 占未满 1					

1-5継続管理(主任)技術者経験の加点評価 -事業促進PPP業務-



【趣旨】 品質確保、技術力を重視した評価(高いマネジメント力を有する技術者の活躍機会の拡大)

【対象】 プロポーザル方式で発注する業務

【概要】 事業促進PPP業務の管理技術者または、主任技術者実績を有する技術者を、

「技術的に高度又は専門的な技術が要求される業務」に管理(主任)技術者として配置する場合、

「管理(主任)技術者の経験及び能力」-「優良表彰」で「部長·事務所長表彰の経験」と同等に評価する【R3.8~】

<mark>認定条件</mark> 過去4箇年度+公示日までに事業促進PPP業務の管理技術者または主任技術者として携わった実績がある。

ただし、上記の事業促進PPP業務の平均業務成績評定が78点以上の場合に限る

『高いマネジメントカ』を評価

プロポーザル方式で発注する、 他の建設コンサルタント業務等に管理技術者で配置する場合



「管理(主任)技術者の経験及び能力」-「優良表彰」で

『部長・事務所長表彰の経験』と同等に加点(3点)

※ただし、部長・事務所長表彰を有する場合は、表彰実績で評価

【加点評価の条件】配置予定技術者(管理(主任)技術者)が以下の3要件を満たす場合に加点評価

- ①表彰実績が無い(有する場合は表彰実績で評価)
- ②過去4箇年度+公示日までに事業促進PPP業務の管理又は主任技術者の実績がある
- ③②の業務成績評定点(複数有する場合は平均点)が78点以上

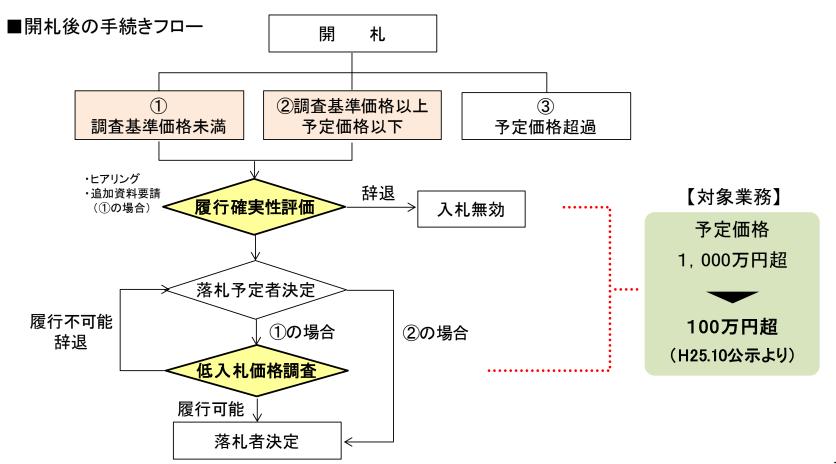
1-6継続履行確実性評価、低入札価格調査における対象業務の拡大



【趣旨】更なる品質確保

【対象】総合評価落札方式で発注する予定価格100万円を超える業務

【概要】品質確保対策として、履行確実性評価、低入札価格調査を実施することとしているが、 規模の小さい業務においても更なる品質確保を図るため、対象業務の予定価格を100万円超 に拡大【H25.10~】



1-⑦継続技術審査段階における条件明示チェックシートの提示



【趣旨】競争参加者への必要な設計条件等の確実な明示

【対象】1事務所1件の試行実施

【概要】条件明示チェックシートの提示時期を契約後から入札公告時に変更【R1.8~】

(条件明示チェックシート:発注者が詳細設計業務発注時に、設計内容・設計条件を確認した後、受注者に必要な設計条件等を確実に明示し、発注者の業務履行上の責任を確実に履行するツール。)

1. 条件明示チェックシートの提示時期の変更

	従 前	現 在(試行)
対象業務	 道路詳細設計(平面交差点を含む) 橋梁詳細設計 樋門・樋管詳細設計 排水機場詳細設計 築堤護岸詳細設計 山岳トンネル詳細設計(換気検討を含む) 共同溝詳細設計 砂防堰堤詳細設計 	同左
提示時期	詳細設計契約後(の1回目打合せ前)	入札公告時(条件明示チェックシートを入札参考資料として添付)

2. 提示時期の変更によるメリット

【発注者のメリット】

- ・当該業務の実施内容や関連機関との調整未了といった申し送り事項が特記仕様書作成時に把握できる。
- ・当該業務公告前に実施する入契委員会で、所長を含めた関係各課に設計内容・設計条件が周知できる。

【入札参加者のメリット】

- ・条件明示チェックシートの内容により、当該業務の懸案等を把握でき、入札参加の判断材料となる。
- ・条件明示チェックシート内容を把握することで、受注後、工程を含めた各種取り組みの対策が早急に対応できる。 例えば、関連機関との調整未了の案件があれば、当該業務のクリティカルパスを把握の上、業務計画書に反映できる。

1-8継続適切な地域要件の設定(一部拡充)

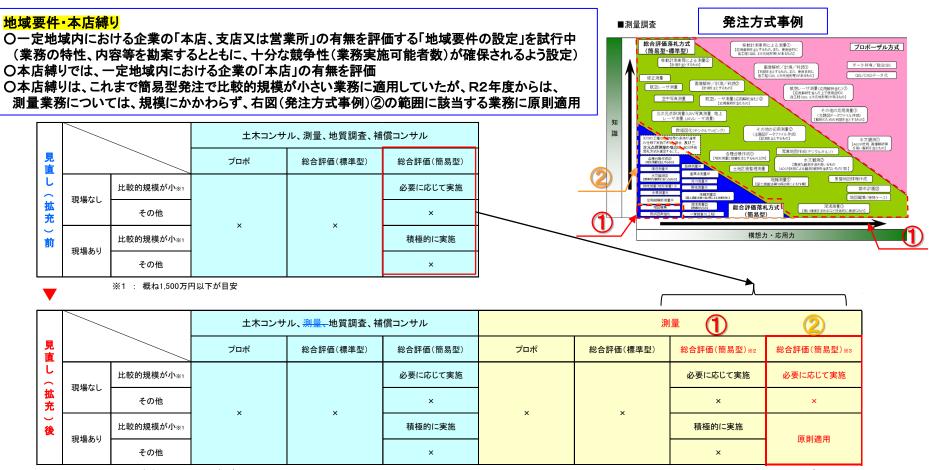


【趣旨】地域企業の育成、確保

【対象】総合評価落札方式を採用し「地域要件」を設定する業務(本店縛りは簡易型が対象)

【概要】「測量業務」の「本店縛り」の適用対象を、「"簡易型"で発注する業務※(現地作業あり)」に拡充(原則)

※: 下図(発注方式事例)②の範囲に該当する業務(業務内容等を勘案し、地域要件設定が適さない場合を除く) 【R2.8~】



※1: 概ね1,500万円以下が目安

※2: 概ね上図(発注方式事例)の①が適用される業務 ※3: 概ね上図(発注方式事例)の②が適用される業務 現在試行中

1-8継続適切な地域要件の設定(一部拡充)



◎発注方式事例における試行対象業務

凡例	□ ○:適用
	■ ×:適用しない

※印の工種は、三次元点群測量を含む

対象			
発注方式事例 簡易型(1:1)	現地作業あり	現地作業なし	下記に該当する業務は対象外 (実績を有する企業が複数あり、十分な競争性を確保できる場合は対象とすることも可)
各種台帳作成②【地形測量を主とするもの】	0	×	▶道路台帳図で交通規制が困難な路線など、MMSを利用する事例
復旧測量※	0	×	
水文観測③【標準的な観測手法によるもの】	0	×	
現地測量【地形測量】※	0	×	→砂防事業など、現地作業が困難な箇所を航空レーザを利用する事例
水準測量※	0	×	
定期縦横断測量※	0	×	▶河川縦横断測量など、航空レーザ測深機を利用する事例 (河川定期縦横断測量業務実施要領に準拠)
地図編集	×	×	➢i-constructionの一環として2次元地図→3次元地図として作成する事例 (設計用数値地形図データ作成仕様に準拠)
既成図数値化	×	×	➤ GIS等で活用される地図データベースを作成する事例 (独自レイヤ設定や作成手法)
路線測量※	0	×	➤交通規制が困難な路線など、MMSを利用する事例
基準点測量※	0	×	
河川測量※	0	×	▶河川縦横断測量など、航空レーザ測深機を利用する事例 (河川定期縦横断測量業務実施要領に準拠)
用地測量※	0	×	
地籍測量②【国土調査法第10条2項による作業を除く】	0	×	→山村部の地籍測量など航空写真測量や航空レーザ測量を利用する事例 (リモートセンシング技術を用いた山村部の地籍調査マニュアルに準拠)
深浅測量②【標準的なもの】	0	×	▶急流部や深度が深い箇所など、ロッド・レッド手法が困難で音響測深機を利用する事例
本次次 単仏 信件中がなひい	0	×	▶面的に3次元データを必要とする事例
一筆調査(E工程)	0	×	

1-8継続適切な地域要件の設定(本店、支店又は営業所縛り) 試行状況



○測量業務において、本店縛りの適用対象を簡易型で発注する業務(現場作業あり)に拡充し、地域企業の育成確保 を目的とした試行を実施。

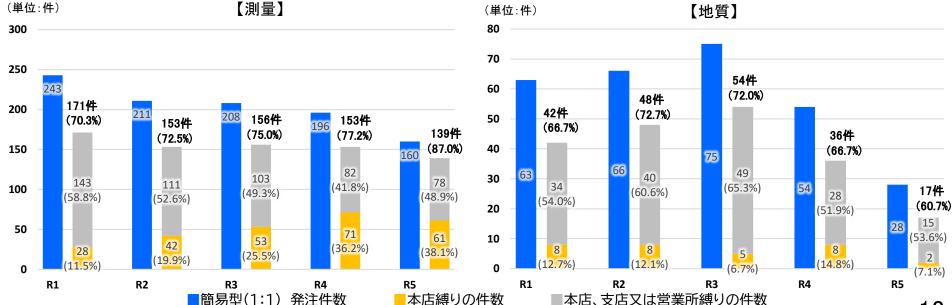
地域企業の育成確保を目的として試行している本店、支店又は営業所縛りの試行状況は、概ね横ばい。【R2.8~】

本店縛りの実施概要(令和2年8月から)

		土木コンサノ	レ、地質調査、補	甫償コンサル		測	量 ①	2	
		プロポ	総合評価 (標準型)	総合評価 (簡易型)	プロポ	総合評価 (標準型)	総合評価 (簡易型) ※2	総合評価 (簡易型) ※3	
現場	比較的規模 が小※1		×	必要に応じて 実施			必要に応じて 実施	必要に応じて 実施	
なし	その他	V		×	×	V	×	×	×
現場	比較的規模 が小※1	×			^ 必要に応じて 実施	×			原則適用
あり	その他			×			×	いたいがい	

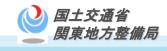
- ※1 概ね1,500万円以下が目安
- ※2 概ね右図(発注方式事例)の①が適用される業務
- ※3 概ね右図(発注方式事例)の②が適用される業務

■本店の所在の有無を入札参加資格要件(本店縛り、本店、支店又は営業所縛り)での実施状況



※予定価格100万円未満の少額随契及び単価契約を除く。港湾空港を除く。R1~R4年度は3月末時点。R5年度は、12月末時点

18



「地域要件」の設定と「地域性」の評価

一部拡充

参加資格(地域要件)

○指定エリアにおける本店・支店・営業所の有無を参加資格要件とする

〇〇〇に本店がある

〇〇〇に支店・営業所がある

上記以外は指名しない

資格

総合評価落札方式で発注する業務において、十分な競争性が確保できる場合、必要に応じて参加資格要件として設定

評価

総合評価落札方式の「入札参加者を指名するための基準」で評価

継続

地域性-地理的条件

〇指定エリアにおける本店・支店・営業所の有無を評価 (「参加表明者の経験及び能力 |-「地域性 |-「地理的条件 |)

〇〇〇に本店がある

〇〇〇に支店・営業所がある

上記以外(加点なし)

新規

地域性一地域貢献度

〇指定エリア内における災害活動実績を評価

(「参加表明者の経験及び能力」-「地域性」-「地域貢献度」)

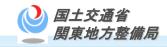
○○事務所(発注事務所)における災害活動実績がある

〇〇事務所(発注事務所)管内災害活動実績がある

関東地整管内における災害活動実績がある

上記以外(加点なし)

1-9継続災害協定等に基づく活動実績の評価対象の拡大【R2.8~R6.7】



【趣旨】品確法改正、災害の激甚化など受けた、迅速な災害対応体制の確保(災害時の地域担い手確保・育成) 【対象】総合評価落札方式(標準型、簡易型)で発注する全業務で選択可とする。

【概要】「地域性ー地域貢献度」の評価項目として<u>「災害活動実績の評価」を新規設定</u> (「地理的条件」の評価は継続)

- ·<u>指定エリア内</u>における<u>災害活動実績を評価</u>
- ・災害協定に基づく災害活動など、関東地方整備局の本局、事務所等からの要請に基づき実施し、 『災害活動証明書』の交付を受けた災害活動実績(過去5年間)を評価

(「入札参加者を指名するための基準」-「参加表明者の経験及び能力」-「地域性」-「地域貢献度」)

- ・評価対象を国(関東地整以外)の機関、地方公共団体、特殊法人等の災害活動実績まで拡大【R3.8~】
 - ■災害活動を証明する資料
 - ・関東地方整備局の実績 : 災害活動証明書(関東地方整備局の本局、事務所等が発効したもの)
 - ・国の機関、地方公共団体、特殊法人等 : 災害活動実績時の災害協定の写し及び当該災害協定に基づき実施されたことが確認できる契約書等の写しを必ず添付

個別業務の依頼文のみの添付では、当該業務内容が災害協定等に基づくものであるのか明確に判断できない場合があることから、 協定書、及び契約書又は災害活動実績に係る証明書の写し(協定名、災害名、活動実施場所、完了日が証明できるもの)を必ず添付

	地域貢献度		
概要	過去5年間の指定エリア内における災害活動実施 総合評価落札方式の「入札参加者を指名するため (「参加表明者の経験及び能力」-「地域性」-「地域	めの基準」で評価	西
		評価ウ	フェイト
	宝 績 内	III. TELL AT III.	ᇈᇳᆂ

	評価ウェイト			
実績内容	地理的条件 なし	地理的条件 あり		
発注事務所 における災害活動実績がある	6	3		
発注事務所 管内を含む都県内に所在地がある 事務所等※の災害活動実績※がある	4	2		
<u>関東地整管内における災害活動実績※</u> がある	2	1		
上記以外	加点しない			

地理的条件【継続】

指定エリアにおける本店・支店・営業所の有無を総合評価落札方式の

「入札参加者を指名するための基準」で評価

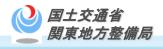
(「参加表明者の経験及び能力」-「地域性」-「地理的条件」)

	評価ウェイト		
所在地	地理的条件 なし	地理的条件 あり	
〇〇〇に本店がある	-	3	
〇〇〇に支店・営業所がある	-	1	
上記以外	-	加点しない	

総合評価落札方式で発注され、現場作業(現地踏査等を除く)がある業務

原則、総合評価落札方式で発注される全業務(選択可)

1-⑩継続業務実績等の評価対象期間の延長(休業考慮)

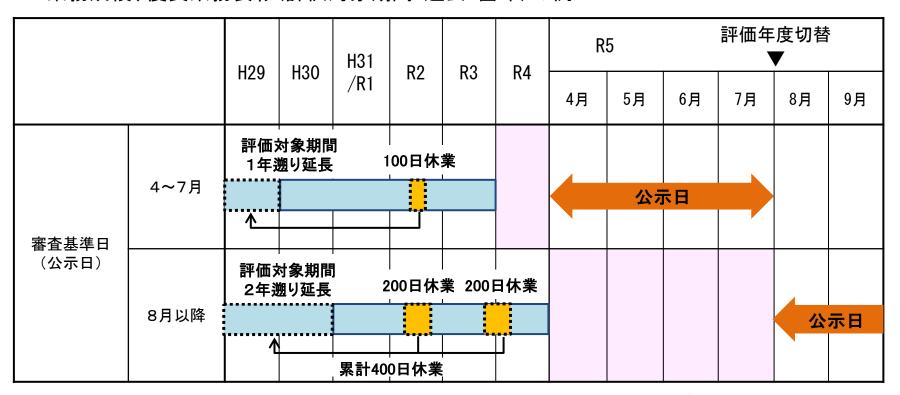


【趣旨】WLBへの配慮、女性技術者等の活躍支援

【対象】総合評価落札方式、プロポーザル方式(総合評価型)で発注する業務の休業:「労働基準法」「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」で規定する「産前・産後休業」「育児休業」「介護休業」

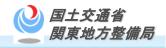
【概要】配置予定技術者が、業務実績等の評価対象期間内において、出産前・後及び育児、介護休業を取得している場合、その期間を遡り、評価対象期間を延長【H28.8~】

■業務成績、優良業務表彰(評価対象期間:過去4箇年)の例



:評価対象期間外

1-①継続若手技術者の活用を評価



【趣旨】若手技術者の育成・確保

【対象】総合評価落札方式(簡易型)で発注する業務

【概要】管理(主任) 技術者の資格・実績評価における「同種・類似業務の実績」の配点割合を低減させ、

技術者に35歳以下の若手を配置した場合に加点評価。【H27.8~】

若手技術者の対象年齢を40歳以下に引き上げて運用を開始【H30.8~】

・若手技術者と若手技術者以外の業務経験(同種・類似業務の実績)に差がなく、若手技術者の業務成績評点は、若手技術者以外と比較する業務実績の件数が少ないため、<u>管理(主任)技術者の「成績・表彰」の配点割</u> 合を低減し、「若手技術者の配置」へ割振り【R5.8~】

比及甘淮 计绘上甘淮

・企業は通常どおりの配点割合

評価項目		指名	<u> </u>	技術点	基型!
計逥項目			試行	通常	試行
【企業の評価】					
資格·実績		15	15		
成績•表彰		35	35		
小計		50	50		
【管理(主任)技	支術者の評価】				
	技術者資格	4	4	6	6
次按单维	CPDの取得状況	1	1	1	1
資格•実績	同種・類似業務の実績	10(5)	5(3)	13(7)	7(4)
	若手技術者		5		6
小計		15	15	20	20
一 线车。	業務成績評点	30	30	25	25
成績・表彰	優良業務表彰等	5	5	5	5
小計		35	35	30	30
実施方針・実	施フロー・工程計画・その他			50	50
合計		100	100	100	100
	(例:土	オコンサ	ル業務、	地質調:	査業務)

		35	35		
		50	50		
		4	4	6	6
		1	1	1	1
)	_/	10(5)	10(5)	13(7)	13(7)
	\		7		8
	L /	15	22	20	28
	V	30	25	25	20
	,	5	3	5	2
		35	28	30	22
1				50	50

100

100

指名基準

15

技術点基準

诵常 │試行 │诵常 │試行

15

()は類似業務の配点

1-⑫継続組合せ評価(国土交通省登録資格)



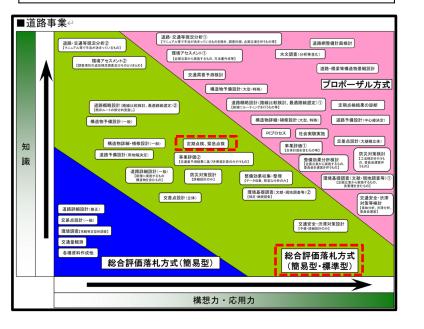
【趣旨】成果品の品質向上(幅広い技術的な知識と業務に関連する専門的な知識(施設分野)に基づく技術的判断が可能となる。)

【対象】総合評価落札方式(簡易型)で発注する橋梁点検(診断)業務※で選択可とする。

(※橋梁点検(診断)業務のうち、担当技術者の資格要件に組合せ加点による評価を試行する業務を対象とする。)

【概要】技術士等の資格に、業務内容に応じて高い専門力を有する「国土交通省登録資格」と組み合わせて加点する。【R5.4~】

R4.8 関東地整 運用ガイドライン (登録資格の対象業務で担当技術者の位置づけがある場合) (資格) 〇 国土交通省登録資格 担当技術者:(施設分野:橋梁(鋼橋)、業務:点検) ① あり 2 ② なし 0



R5.4 関東地整(試行) (登録資格の対象業務で担当技術者の位置づけがある場合) (資格) 技術士 博士又はこれと同等の学位 ※研究業務の場合 国土交诵省登録資格 1 (RCCM、土木学会認定技術者) 2 (RCCM、土木学会認定技術者 以外) 上記以外のもの (国土交通省登録資格を除いて、発注者が指定するもの) ④ ①~③以外の場合は指名しない ※評価に当たっては、配置予定担当技術者の平均を持って評価する。 R5試行 配点順 1) (1)+(2)2 (6+2)2) ① 3) 21+22 (2+2)4) ②1または②2

【組合せ評価に当たっての前提条件】

5) (3)

- 技術士とRCCM・土木学会認定技術者は、共に、「幅広い技術的な知識を持つ資格」であるため、 双方の組合せによる加点は行わないものとする。
- ○国土交通省登録資格をRCCM・土木学会認定技術者とそれ以外に分割し、RCCM・土木学会認定技術者以外の国土交通省登録資格を「専門的な知識をもつ資格」とし、組合せ加点の対象とする。(国土交通省登録資格の一例:橋梁点検士、コンクリート点検士、RCCM(鋼構造及びコンクリート)などり



2. 技術力が十分発揮できる競争環境の確保

2-1)継続分離発注の徹底

2-2継続拡大型プロポーザル方式の導入



2-① 分離発注の徹底

【趣旨】担い手の育成・確保

【対象】測量、地質調査、設計等の業務

【概要】業種区分に応じた分離発注を原則とする。

やむを得ず複合業務とする場合は設計共同体(異業種JV)を資格要件とするなど競争環境を確保する。

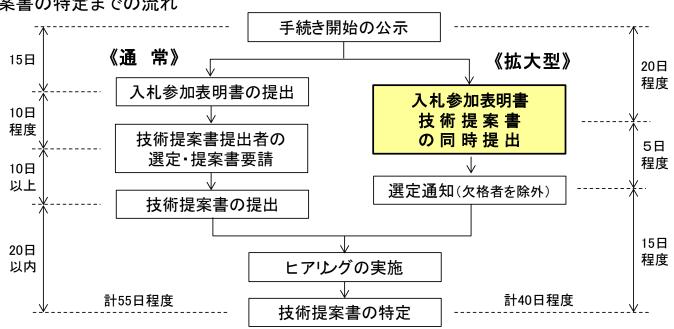
2-2 拡大型プロポーザル方式の導入

【趣旨】品質向上

【対象】簡易公募型プロポーザル方式(準ずる含む)で発注する業務

【概要】幅広く技術提案を求めた方が成果の品質向上が望める場合(特殊な業務のため実績が少ない、 技術的難易度が非常に高い等)は、技術提案書提出者の選定(欠格者は除く)を行わず、 入札参加者全員の技術提案書を評価。【H25.10~】

■技術提案書の特定までの流れ



2-③継続業務成績評点、優良業務表彰等の評価基準変更



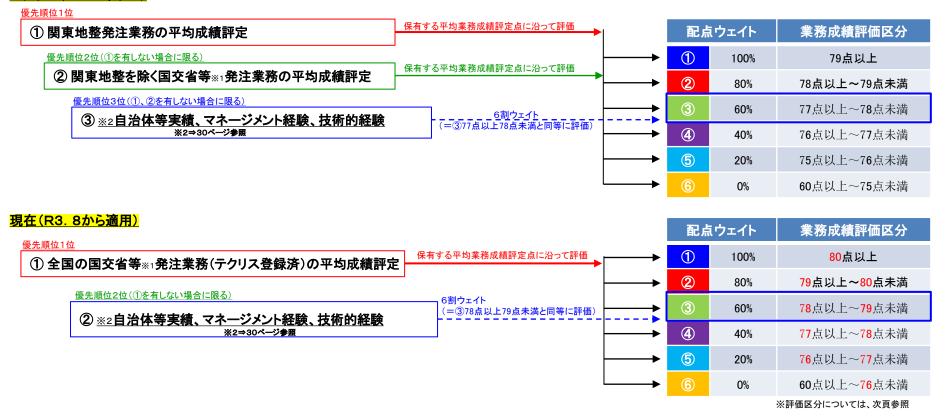
業務成績評点の評価基準

【趣旨】 全国統一的な評価、技術力による選定

【対象】 総合評価落札方式、プロポーザル方式で発注する業務

【概要】 関東地整発注業務優先の評価から全国実績評価に見直し【R3.8~】

これまで(R3. 7末まで)



2-③継続業務成績評点、優良業務表彰等の評価基準変更



◆ 業務成績評価の上限値・下限値の変更【見直し】

【趣旨】業務成績評点の評価基準見直しを受けた評価区分の適正化

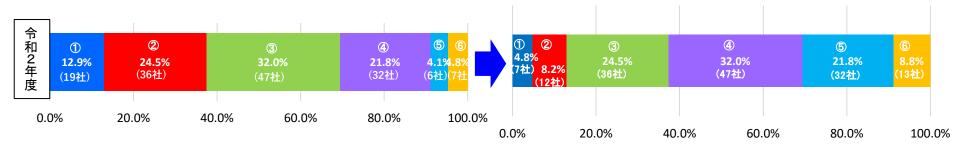
【対象】プロポーザル方式、総合評価方式で発注する業務

【概要】関東地整発注業務優先の評価から全国実績評価への見直しを踏まえ、評価区分の適正化をはかる【R3.8~】

土木コンサル・地質・測量

※業務成績の評価切り替えは8月のため、令和3年度企業評価のグラフは令和2年度企業平均点(H30・R1年度完了業務)のデータを元に整理 ※業務成績は過去2箇年の平均点で、60点未満の場合は欠格

令和3年7月まで 現在(令和3年8月から適用) 配点ウェイト 業務成績評価区分 配点ウェイト 業務成績評価区分 1 79点以上 1 80点以上 100% 100% 2 78点以上~79点未満 2 79点以上~80点未満 80% 80% (3) 77点以上~78点未満 3 78点以上~79点未満 60% 評価区分を 60% 1点ずつUP 77点以上~78点未満 4 76点以上~77点未満 4 40% 40% **76**点以上~**77**点未満 (5) 75点以上~76点未満 (5) 20% 20% **60**点以上~**75**点未満 60点以上~76点未満 0% 0%



2-③継続自治体等受注実績・マネジメント経験評価、業務実績要件の緩和



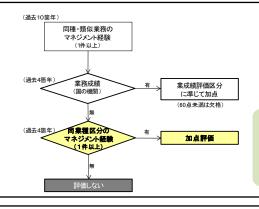
自治体等からの受注実績の評価

- 〇企業・技術者ともに国の機関※1発注業務の同種・類似業務実績を有さず、 関東地整管内の自治体等発注業務の実績を有する場合は業務実績として認める(H23~) (過去4筒年に企業2件※2、技術者1件※3以上)
- 〇発注業務と同業種区分の業務成績(過去4箇年)を有していない場合でも、上記受注実績が確認できれば、 総合評価落札方式(簡易型)で発注する業務の「業務成績」の評価において加点(港湾空港、建築コンを除く)
 - ※1 国の機関: 関東地勢を除く本省内部を除く国土交通省(国土地理院、国総研等を含む)、内閣府沖縄総合事務局開発建設部(農業、漁港、港湾空港を除く)
 - ※2 同一の自治体等の発注業務であること
 - ※3 企業実績と同一の自治体等の発注業務であること
 - ※4 その他の適用要件等の詳細については、「関東地方整備局建設コンサルタント業務等における入札・契約、総合評価に関する運用ガイドライン」を参照

総合評価落札方式 (簡易型)発注業務 (選去4箇年) 業務成績 (国の機関※) 成績評価区分 (ご準じて加点 (60点未満は欠格) 無 (同種・類似業務) 無 評価しない

マネジメント経験の実績を評価

- 〇発注業務の同種・類似業務のマネジメント経験※5を 同種・類似業務実績として認め、入札参加が可能。
- ○国の機関の業務成績(過去4箇年)を有していない場合、 過去4箇年に発注業務と同業種区分の業務を1件以上 マネジメントした経験を有する場合は「業務成績」の 評価において加点する。



※5 マネジメント経験者

以下のいずれかの立場で、同種・類似業務のマネジメント経験がある者

- ① 建設コンサルタント登録規程第3条の一に該当する入札説明書(個別)に記載する部門の技術管理者
- ② 地質調査業者登録規程第3条の一に該当する技術管理者
- ③ 地方建設局委託設計業務等調査検査事務処理要領第6に該当する主任調査員相当以上

業務実績要件の緩和(試行)における技術的経験

- ○業務実績要件の緩和(試行):「同種・類似業務実績」に代えて、評価テーマの技術提案内容を裏付ける『技術的経験』を求める試行
- 〇企業、配置予定技術者が業務成績を有さないが、「技術的経験」を有することを確認できた場合に「業務成績」の評価において加点。
- 〇「技術的経験」とは
- ◆企業の技術的経験

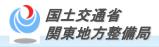
技術提案書の提出者が、特定テーマに関する技術提案内容の実現に必要な技術を、国・特殊法人・地方公共団体等(①)発注の業務・役務で活用した実績、

- ②の研究機関との研究において活用した実績。
- ◆配置予定技術者(管理技術者)の技術的経験

配置予定技術者が、特定テーマに関する技術提案内容の実現に必要な技術を、国・特殊法人・地方公共団体等(①)発注の業務・役務で活用した実績、

- ②の研究機関との研究において活用した実績、②の研究機関で研究を行った実績。(技術的経験の業務内容が本業務と同様であることは要さない)
- ※4 その他の適用要件等の詳細については、「関東地方整備局建設コンサルタント業務等における入札・契約、総合評価に関する運用ガイドライン」を参照

2-③継続業務成績評点、優良業務表彰等の評価基準変更



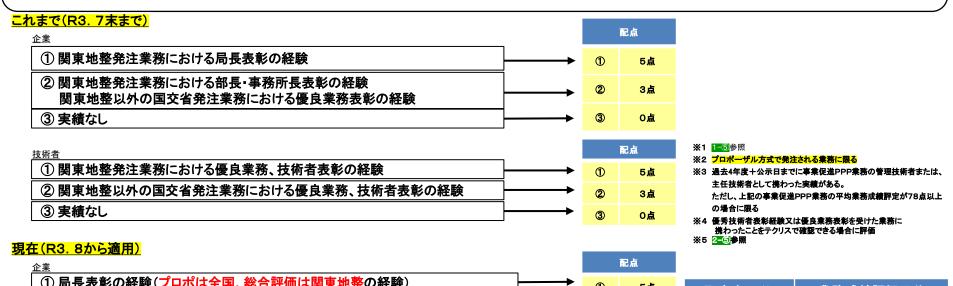
優良業務表彰等の評価基準

【趣旨】全国統一的な評価、海外実績、業務のマネージメント力など高い技術力を有する企業・技術者の参加機会拡大

【対象】 総合評価落札方式、プロポーザル方式で発注する業務

【概要】 ◆プロポーザルは「全国実績」で評価、総合評価は「関東地整実績」で評価【R3.8~】

- ◆海外インフラプロジェクト業務表彰の評価
- ⇒大臣表彰は「局長」表彰、大臣奨励賞は「部長・事務所長」表彰と同等に評価
- ◆事業促進PPP業務における管理(主任)技術者の経験を「部長・事務所長」表彰と同等に評価※1、※2、※3



① /D 及公中 (V 下小 16 工 目 1 地 16 因 不 2 正 0 /		T)
② 部長・事務所長表彰の経験(プロポは全国、総合評価は関東地整の経験)		2
③ 実績なし	—	3
技術者	7	
①・局長表彰の経験※4(プロポは全国、総合評価は関東地整の経験) ・海外インフラプロジェクト業務の大臣表彰※5		1
②・部長・事務所長表彰の経験※4(プロポは全国、総合評価は関東地整の経験)・海外インフラプロジェクト業系の大臣奨励賞※5		2
- 過去4年度間の事業促進PPP業務における <u>管理・主任</u> 技術者の経験 _{※1、※2、※3} ③ 実績なし	<u> </u>	3

配点ウェイト		業務成績評価区分
1	100%	80点以上
2	80%	79点以上~80点未満
3	60%	78点以上~ 79 点未満
4	40%	77点以上~78点未満
⑤	20%	76点以上~77点未満
6	0%	60 点以上~ 76 点未満

5点 3点 0点

5点

3点

0点

配点

2-④継続業務実績の評価対象期間の見直し



【趣旨】「履行期限の平準化」の取組み推進(繰越制度の活用等)等への対応

【対象】同種・類似業務実績を求める業務

- 【概要】〇評価年度の切替を4月とし、過去10年+当該年度の審査基準日(公示日)までに完了した業務が対象となるよう見直し【H28.4公示~】
 - ○評価対象期間内に出産前・後及び育児、介護休業を取得している場合は、所定の期間を延長 (1-① 業務実績等の評価対象期間の延長(休業考慮)を適用)

■同種・類似業務の実績評価対象期間 評価年度切替 評価年度切替 R4 H31 R2 R3 H23 H24 | H25 /R1 8月 4月 5月 6月 7月 9月 評価対象期間(過去10年間) 公示日 4~7月 審查基準日 従 前 (公示日) 8月 評価対象期間(過去10年間) 公示日 以降 : 評価対象外 (例) 見直し 審查基準日 7月の 評価対象期間(過去10年間 + 当該年度分) ◎公示日 (公示日) 場合

2-5 継続海外インフラプロジェクト実績認定・表彰の評価



【趣旨】 海外進出や国内外の技術者の相互活用の促進

【対象】 総合評価落札方式、プロポーザル方式で発注する業務

【概要】・海外インフラプロジェクト技術者認定を受けた同種・類似業務を実績と認める【R3.4~】

・海外インフラプロジェクト表彰を受賞した技術者を、配置予定技術者の優良表彰の評価において加点評価

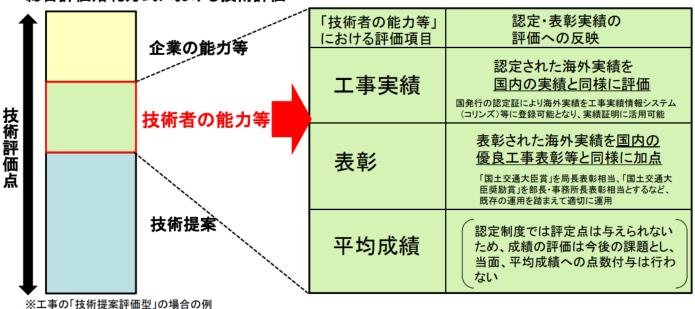
認定・表彰された実績の直轄工事・業務における評価



- ○本制度による海外プロジェクトの認定・表彰実績を<u>令和3年4月1日以降に入札契約手続を開始する直轄工事・業務の</u>入札・契約から評価に活用。
- ○認定実績を同種工事等の実績として認めるとともに、表彰実績を国内での優良工事表彰等と同等に加点評価。
- ○直轄工事等で海外工事等の実績が国内実績と同様に評価されることで、技術者が海外で活躍できる環境を整備。

■直轄工事等における認定・表彰の評価への活用(イメージ)

総合評価落札方式における技術評価



2-6継続手持ち業務量(金額上限)の見直し



【趣旨】 品質確保のため、より高い技術力を有する技術者の参加機会の確保(手持ち業務量による受注制限を改善) 働き方改革等への配慮から、件数は変更せず、状況の変化※のみを考慮

【対象】 総合評価落札方式、プロポーザル方式で発注する業務

【概要】 配置予定管理(主任)技術者の手持ち業務量の金額上限見直し【R3.4~】

手持ち業務量の緩和



- 〇建設コンサルタント業務等は、管理技術者等が個々の業務の担当技術者を統括して、複数の業務を同 時進行で実施することが通常
- 業務量の集中、労働条件の悪化等による業務成果品の品質低下を防ぐため、手持ち業務量を設定

建設コンサルタント業務等の入札・契約手続の 運用について

建設省厚契発第 43 号平成 12 年12 月6日

(略)

- 4) 業務実施上の条件
- ① 配置予定技術者 に対する要件は、以下のとおりとする
- ・手持ち業務量

平成〇年〇月〇日現在 の手持ち業務量(特定後未 契約のものを含む)

管理技術者:全ての手持ち業務の契約金額合計が 〇円未満かつ手持ち業務の件数3〇件未満である者

(略)

【注:「手持ち業務」は契約金額が500万円以上の業務を対象とする。】

【注:「<mark>〇円」は4億円程度、「〇件」は10件程度を基本</mark> とし、業務内容に応じて適宜設定するものとする。】

(以下略)

【状況の変化】

- <新たな業種の発生>
 - ·事業促進PPPの導入·拡大(H24から導入)
 - ・当該業務の契約金額は概ね120百万円/件
- <契約額の変化>
 - ・当時は平均契約額を4,000万円/件を想定と思料
 - ・R1年度完了業務の平均は約4,500万円/件 発注ロットの変化等が原因と思料



- ・手持ちの金額が、上限に達しやすくなっており、 災害復旧等、緊急時への対応に支障が生じる 懸念が有
- ・新たな業種の発生や契約額の変化・物価の変動等 を考慮した上で、手持ち金額を緩和すべきでは ないか

入札説明書 共通事項 配置予定技術者に対する要件 管理(主任)技術者

ウ) 手持ち業務量の制限 契約額の合計が4億円未満 かつ契約件数の合計が10件未満 であることを標準とする。 (以下略)



ウ)手持ち業務量の制限 契約額の合計が5億円未満 かつ契約件数の合計が10件未満 であることを標準とする。 (以下略)

※手持ち業務の中に低入札契約が 含まれている場合は、2.5億円、 5件未満に変更。

2-⑦継続照査技術者の配置要件の見直し(試行)



【趣旨】照査技術者の配置要件の見直し

【対象】総合評価落札方式・プロポーザル方式(詳細設計等の照査技術者を配置する業務)

【概要】適性な品質を確保する上で、照査技術者は重要であり、知識や経験が求められる。

照査技術者の要件として、過去10年以内の管理技術者もしくは担当技術者としての実務経験(同種・類似業務)の経験実績を求めていることから、照査業務のみを行うベテラン技術者の場合、配置要件を満たさなくなる。 建設コンサルタントの技術者不足が指摘される中、ベテラン技術者の豊かな知識・経験が生かし、照査技術者を継続的に行えるように要件を見直す。【R4.8~】

設定条件

業務経験ー過去10年間の同種・類似業務の実績として、<u>照査</u>技術者の実績を追加。【見直し】 技術カー過去4年間の業務成績評点に、照査技術者として携わった業務の業務評定点を追加。【見直し】

指名・選定			現行	
,10 D ZZ ZZ				評価基準
資格・実績	業務経験	同種・類似業務の実績	管理 (主任)	・担当技術者の実績
成績・表彰	技術力	業務成績評点	管理(主任) 業務評定点	・担当技術者で携わった業務の

		<u> </u>		
技術評価点算出・特定				現行
汉州計 ш 点异山 · 付化				評価基準
資格・実績	業務経験	同種・類似業務の実績	管理 (主任)	・担当技術者の実績
成績・表彰	技術力	業務成績評点	管理(主任) 業務評定点	・担当技術者で携わった業務の



		見直し	(案)	
		評価	基準	
管理	(主任)	・担当・	・ <mark>照査</mark> 技術者の実績	
		・担当・ 業務評定	・ <mark>照査</mark> 技術者で携 定点	

	見直し(案)
	評価基準	
管理(主任)	・担当・ <u>照</u> 者	₹技術者の実績
管理(主任) わった業務の		₹技術者で携

2-8継続テレビ会議システムを活用したヒアリングの実施(試行)



【趣旨】テレビ会議システムによるヒアリングの実施を標準化

【対象】技術提案内容のヒアリングを実施する全ての発注方式

【概要】従来より対面式によりヒアリングを実施してきたが、感染症対策から原則ヒアリングを実施しない運用としてきた が、発注者及び受注者双方から技術提案書の内容をヒアリングにより確認したいとの要望があり、テレビ会議に よるヒアリングの実施に向けた環境が整ったことから、原則、テレビ会議システムにより実施する。【R4.4~】

テレビ会議システムによるヒアリングの実施

く発注者のメリットン

- ○ヒアリングを行うことで評価がしっかり出来る。
- 技術提案書提出者に対して、
 - •受付する時間
 - 会場(会議室)までの誘導
 - 会議室の確保

等が無くなる。

<受注者のメリット>



- 会場(発注事務所等)への移動時間が無くなる。
- 技術提案の内容をしっかりアピールすることが 出来る。





在宅勤務でもヒアリング可能なことから働き方改革にも寄与し、移動時間の削減により生産性向上に寄与。

感染症対策から原則ヒアリングを実施しない運用 における評価風景(自席等で評価)



※ヒアリング実施

プロポ、総合評価(標準型1:2、標準型1:3)

※ヒアリング省略

総合評価(標準型1:3(技術者評価重視型)) 総合評価(簡易型1:1、実施能力評価拡大型)



テレビ会議システムを活用したヒアリング風景



2-9継続発注者支援業務等の継続教育取組実績CPDの評価



【趣旨】他の総合評価においても、すべての業務で管理技術者のCPD加点評価を実施しているため、 発注者支援業務等でも加点評価。

【対象】一般競争入札(総合評価落札方式 簡易型1:1 及び 標準1:2)で発注する業務

【概要】市場化テストも終了し、発注者支援業務等の品質確保の観点から、継続教育を行い技術の

研鑽に取り組んでいる管理技術者について継続教育取組実績CPDの取得状況に加点評価。【R5.8~】

発注者支援業務 標準型1:2の例

業務分野別の評価基準							
	評価項目		工事監督支援	積算技術	技術審査	総合評価 (標準型)	
管理技術者	資格要件	技術者資格等	技術士(総合技術監理部門:建設部門関連科目又は建設) 一級土木施工管理技士 、本学会特別上級土木技術者、土木学会上級土木技術 は土木学会・級土木技術者 ・土木学会・級土木技術者 ・土木学会・級土木技術者 ・土木学会・級土木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大学会中級上木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大は土本学会・級土木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大学会特別上級土木技術者 ・大は土本学会・級土木技術者 ・大は土本学会・級土木技術者 を			①5 ⇒ 4 ②3 ⇒ 2	
	専門技術力	業務執行技術力	継続教育取組実績 CPDの取得状況 D同種業務の実績がある。 P類似業務の実績がある。			1 ①5 ②3	
	情報収集力	地域精通度	②事務所等が所在する都県に隣接する都県(整備局 ③整備局管内における同種又は類似業務の実績があ	事務所等管内における同種又は類似業務の実績がある。 事務所等が所在する都県に隣接する都県(整備局管内)における同種又は類似業務の実績がある。 整備局管内における同種又は類似業務の実績がある。 事務所等が所在する都県に隣接する都県(整備局管外)における同種又は類似業務の実績がある。			
担当技術者等 の経験	予定担当技行 専門技行)同種業務の実績がある。			①5 ②3 ③0	
	業務理解度		業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位	表務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
実施方針等	実施体制		下記の場合に優位に評価する。 ・担当技術者(管理技術者は対象外)の人数、代替要員の確保など業務を遂行するうえで体制が確保されている場合。 ・担当技術者の技術力の確保及び向上に向けた取り組みが具体的に示されている場合。 ・業務発注担当部署からの指示事項等の担当技術者への円滑な伝達と共有のための手法、及び担当技術者へのフォロー方法が具体的に示されている場合。 ・業務工程等の変化による業務量の変動に対する業務実施体制が具体的に示されている場合。			20	
技術提案	本業務におけ	的確性	必要なキーワード(着眼点、問題点、解決方法)が網網	全されている場合に優位に評価する。		20	
汉附近米	る留意点	実現性	提案内容に説得力がある場合に優位に評価する。			10	

対象業務

ハンシャイン			
	業務名		
	積算技術業務		
発	技術審査業務		
注	工事監督支援業務		
者	河川巡視業務		
支 援	河川許認可審査支援業務		
業	ダム管理支援業務		
務	堰·排水機場等管理支援業務		
等	道路許認可審査·適正化指導業務		
	用地補償総合技術業務		
	調査設計資料作成業務		
そ	用地調査点検等技術業務		
の 他	裁決申請等関係資料作成整理等業務及び災 害復旧用地関係資料作成整理等業務		
	施工体制調査業務		

- ・建設系CPD協議会の構成団体 ・測量系CPD協議会
- ・補償コンサルタントCPD協議会

各々協議会が発行するCPDの登録 証明書等があり、推奨する単位を満 たしている場合に評価



3. 事務手続きの効率化

3-1継続クラウドを活用した資料閲覧 -資料閲覧の効率化-



対象 資料閲覧を行う全業務(原則、契約中の業務も含む)

現行(新試行:R2.9~)|

- **クラウドを活用した電子成果品データ等の一時DL、閲覧**を可とする。※電子データが無い資料を除く
- 従来FAXで行っていた閲覧申請をメール申請に改善。誓約書もメール提出可。(R2.12~改善)

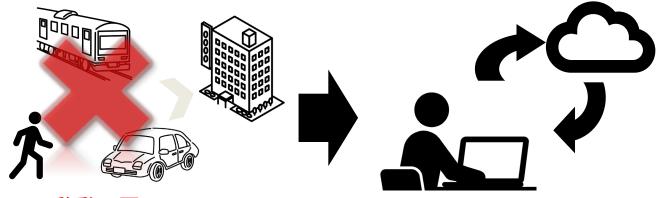
期待される効果

主に受注者側の働き方改革に寄与

○ 閲覧会場への移動が不要(自社でDL、一時複製、閲覧が可能) など

留意事項

- 電子データの取扱い(セキュリティ対策)として、誓約書提出を義務づけ
- 〇 電子成果品が無い(電子成果品以前の業務成果など)場合は、従前通りの閲覧(紙成果)で実施



3-1)継続継続業務の発注時の資料閲覧について



- ○資料閲覧の実施方法
 - ・R2年度よりクラウドを活用した資料閲覧を実施
 - →資料閲覧は事務所へ来所することなく電子データにて資料閲覧を実施

R☆年度 R★年度
1四半期 2四半期 3四半期 4四半期 1四半期 2四半期 3四半期 4四半期

【業務完了後に継続業務発注の発注手続きを行う場合】

R4OO検討業務

■資料閲覧

完了業務の報告書等

発注手続き

R5OO調査業務

【やむを得ず履行中の業務完了前に継続業務発注手続きを行う場合】

R4OO検討業務

発注手続き

R5OO調査業務

■資料閲覧

- •完了業務の報告書等
- 履行中の業務内容に関する資料 (途中の成果や打ち合わせ資料等の抜粋を活用した資料を想象
- 技術提案のテーマに関係性のある資料

3-②継続入札説明書等の記載の簡素化 3-③継続入札公告資料の合理化



◆入札説明書等の記載の簡素化

【趣旨】入札参加にかかる作業(受注者)、評価作業(発注者)の負担軽減 等

【対象】プロポーザル方式、総合評価方式で発注する業務

【概要】・入札説明書等の記載内容見直し・共通事項のホームページ掲載

- ・指名選定時等の評価方法見直し・参加表明書添付資料の簡素化
- ・総合評価落札方式(簡易型)の技術提案書記載内容の見直し・過剰記載の抑制【H27.8~】
- ・実施方針おける評価ポイントの明確化【H28.8~】

■技術提案書の記載内容

項目	従 前	試 行
実施方針	・業務を実施する上での着目点を抽出し、 それを踏まえた実施方針、品質管理等に ついて記載。 ※着眼点は複数記載可	・発注者が提示する、 成果の品質に関わる事項 業務のクリティカルパス 等 における課題(留意点)とその理由及び具体的な対応方針を記載。 ※課題は最も重要と考えられる1項目を記載。
実施手順	業務実施手順を示す実施フローを記載。	従前通り。
工程表	業務量の把握状況を示す工程計画を記載。	従前通り。
その他	有益な代替案、重要な指摘事項について記載。	_

◆入札公告資料の合理化

趣旨)事務負担の軽減、記載ミスの防止

対象)プロポーザル方式、総合評価方式で発注する業務

概要)入札説明書(個別)等に記載されている資格要件や参加表明書の提出期限などの 必要事項を定型様式にとりまとめ、入札説明書(個別)に添付。【R2.4~】 受注者の業務内容確認作業の負担の軽減、発注者の条件設定のミス防止をはかる

	[#8
	做新事項一覧表
1 素種医分	0000
2 業務名	0000
3 #RAS	(例2 本業務は、○○事務所管内の○○○○○○に向けた詳細般計を行うものである。
4.旅行和間	会和2年月から会和年月まで
5条注着名	分位文出資銀行為採出官 開業地方整備局0長
6 素務規模	本業務の参考業務機構は0万円程度(段込み)を想定している。
7 先項形態	葡萄公募型プロボーザル方式
(金庫)	同種業務: 〇〇の〇〇を行った業務
	類似業務: 〇〇の〇〇を行った業務(同種を除く)
9 DASER commercial	
O DESCRIPTION	
1 人名曼莱什莱斯	
2 多彩色明書報出現職	
3.技術技术療養3.利益	
4 入れ春桂白草原	
15 開札日時	
4 Q 8 H	
7 株定 テーマ	ついた対策工権の対象をもつの多のの。シリカをはついて
	以下のいずれかの資格を有する(公司日までに登録が完了している)者。
	7) 技術士(総合技術監視監門:雑設監門開連科目)
	<) NS± (MRSST)

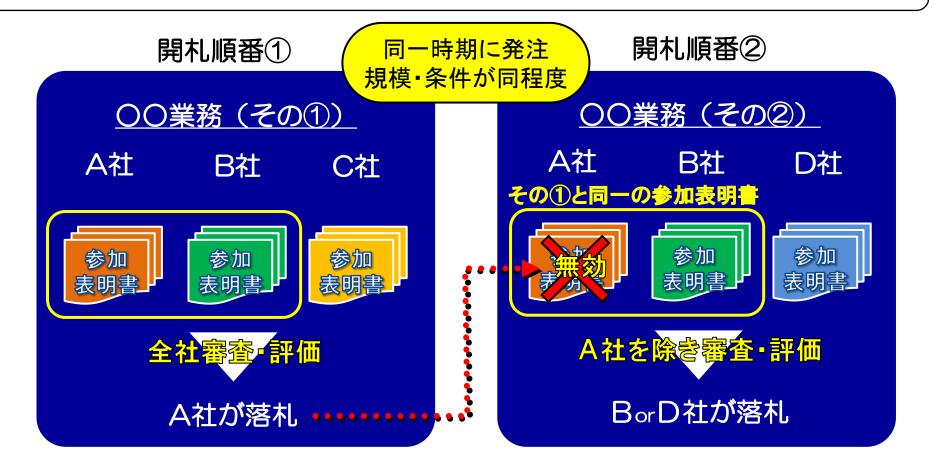
3-④継続一括審査方式の導入



【趣旨】受注者の入札参加にかかる作業負担軽減 等

【対象】総合評価落札方式で発注する業務のうち、十分な競争性が確保でき、技術的難易度が比較的高くないもの (例えば災害時の測量・設計業務などの実施期間・期限が限られている業務等)

【概要】・同一時期発注の規模、条件が同程度の複数業務に、同一の参加表明書での参加を認め、評価する方式。 ・あらかじめ定めた開札順番で開札し、落札者を決定(同じ管理技術者での重複受注は認めない)【H28.8~】



【趣旨】受・発注者の負担軽減

【対象】総合評価落札方式(標準型(1:3))で発注する業務

【概要】評価テーマを設定せず、配置予定技術者の「業務成績」、技術提案の「実施方針」を重視する評価方法。 H27年度から詳細設計等の業務に限定して適用。活用促進を図るため、通常の標準型との使い分けを 個々の業務特性に応じ判断できるよう見直し(試行対象を全業務に拡大) 更なる事務負担軽減のため、ヒアリングを省略。【H29.4~】

【趣旨】評価・審査の効率化、事務負担の軽減

【対象】総合評価落札方式、プロポーザル方式(総合評価型)で発注する業務

【概要】「簡易な参加表明書」により、非指名と想定される者をより分けることにより、評価・審査の効率化、 事務負担の軽減を図る。

また、参加表明書の様式をExcel形式にまとめ、参加表明書作成の作業が効率的に行える仕組みを構築 し、参加者の事務負担の軽減を図る。【H30.8~】

【趣旨】総合評価落札方式(一部試行を除く)の技術提案書の評価にて無効となった参加者に対し、その旨を通 知する。

【対象】(簡易)公募型競争入札(総合評価)方式(簡易型の実施能力評価型を除く)で発注する建設コンサルタン ト業務

【概要】対象業務では指名通知のみ通知し、技術提案書が無効となった場合、通知が無く、入札に参加する。 提案が無効の場合、入札に至る前に技術提案書が無効となった旨を通知することで、無効な入札手続き を省略する。なお、提案の無効がない場合は、通知せず入札を執行する。【R4.4~】

3-8継続実施能力を評価した選定(更なる簡素化)



【趣旨】評価・審査の効率化、事務負担の軽減

【対象】総合評価落札方式(簡易型)で発注する一部業務

【概要】参加表明書と技術提案書(実施計画書)の提出を同時に求め、実施能力の確認と参加表明書による 技術評価を行い、評価・審査の効率化、事務負担の軽減を図る。

2段階審査を

1段階審査へ

短縮

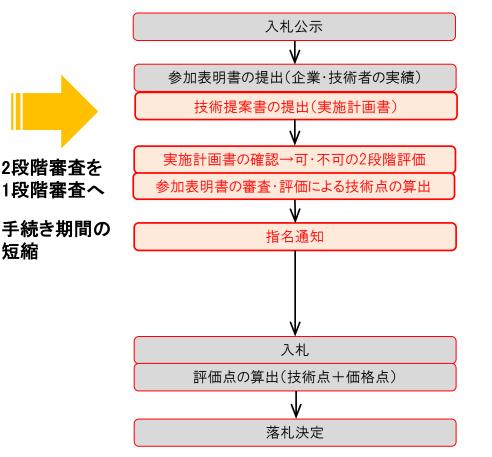
技術提案書(実施計画書)の記載は簡素化し、受注者の資料作成の負担軽減を図る。

試行対象業務は当面「水質調査業務」「交通量調査業務」「点検業務」とする。

【指名競争】総合評価落札方式の実施手順

入札公示 参加表明書の提出(企業・技術者の実績) 参加表明書の審査・評価 指名通知(技術提案書の提出要請) 技術提案(実施方針)の提出 技術提案(実施方針)の審査・評価による 技術点の算出 入札. 評価点の算出(技術点+価格点) 落札決定

【指名競争】総合評価落札方式(実施能力評価型)の実施手順



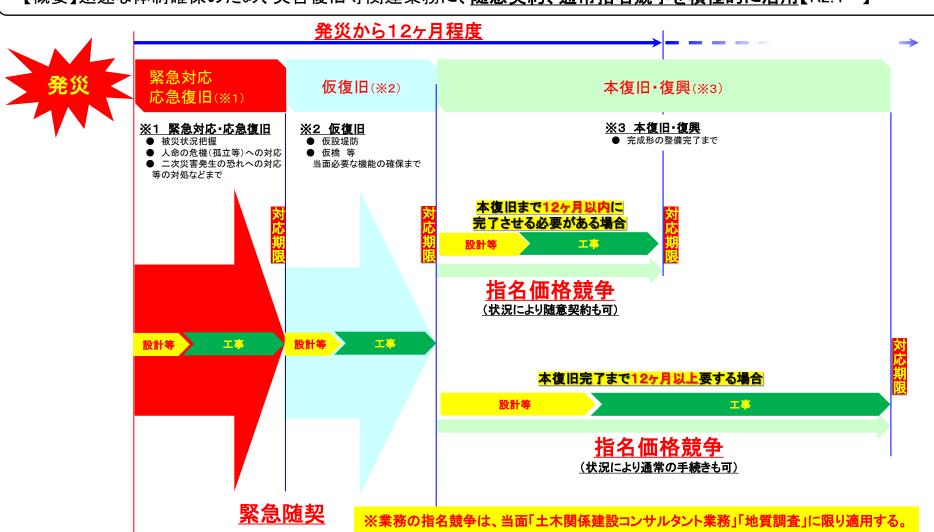
3-9継続災害対応における随意契約、通常指名競争の活用



【趣旨】品確法改正、災害の激甚化など受けた、迅速な災害対応体制の確保

【対象】災害復旧等関連の業務(※当面「土木関係建設コンサルタント業務」「地質調査」に限り適用)

【概要】迅速な体制確保のため、災害復旧等関連業務に、<u>随意契約、通常指名競争を積極的に活用</u>【R2.4~】



3-⑩継続入札結果及び契約内容等に係る情報閲覧の効率化



◆インターネットを活用した建設コンサルタント業務等の入札・契約過程、契約内容等に係る情報公表

【趣旨】 働き方改革、労働基準法改正(残業時間の上限規制)を受けた改善

【対象】 建設コンサルタント業務等

【概要】 従前、事務所等で閲覧に供していた、入札・契約過程、契約内容等に係る情報を自社等で「入札情報サービス(PPI)」により閲覧可能に改善。【R2.10~】

入札情報サービス(PPI)で閲覧可能な情報

指名競争	プロポーザル
指名業者名及び指名理由	選定業者名及び選定理由
公募型・簡易公募型競争入札の指名結果書	公募型・簡易公募型プロポーザル方式における選定結果書
予定価格	プロポーザル評価表
調査基準価格	プロポーザル方式の特定結果書
予定価格の積算内訳	随意契約結果及び契約の内容※
業務設計書	予定価格の積算内訳※
契約の内容	業務設計書※
入札調書	プロポーザル評価表
技術点評価結果	



4. 評価点配分表、評価項目



4-①「土木関係建設コンサルタント業務、地質調査、測量」

適用: 令和6年8月1日以降に公示する案件



○成績・表彰の評価年次修正企業の評価(過去2カ年 R4、R5)技術者の評価(過去4カ年 R2、R3、R4、R5)

- 〇災害協定等に基づく活動実績の評価(R6見直し)
 - ■総合評価落札方式を対象に、地域貢献度の評価項目において「災害活動 実績の有無」の評価に加え、「災害協定締結の有無」を評価に追加。

- 〇インフラ分野のDXに係る優れた取組を評価(R6新規②)
 - ■全ての契約方式を対象に、優良業務表彰等の評価項目において「インフラ DX大賞」または「関東DX大賞」を受けた経験がある者を評価。

(簡易)公募型プロポーザル方式の標準的な評価点



公募型・簡易公募型プロポーザル方式

	身型・間易公券型プロホーサ					(±	大関係コンサルタ	ント業務、地質調	查】		
	-T. /TT. C		=+ 4m=== F3	=======================================	必須:○	照査技術			 析者有り	From E. 3	NH 42
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	選択:△	担当技術者なし	担当技術者あり	担当技術者なし	担当技術者あり	【測量】	備考
			資格要件	技術部門登録	0	5	5	5	5	参加の適否	
		資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10	10	15	過去10年間で原則1件とする
	A 384 or =17 fm	夫槙	小計			15	15	15	15	15	
技術	企業の評価	10.44	++45	業務成績評定	0	30	30	30	30	30	過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
提提		成績· 表彰	技術力	優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	5	過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
案		衣彩	小計	•	•	35	35	35	35	35	
書			資格要件	技術者資格	0	4	4	4	4	参加の適否	
是		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	5	
出		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10	10	10	過去10年間で原則1件とする
者			小計	•	•	15	15	15	15	15	
を	管理(主任)技術者の評価					30	30	30	30	30	過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
医定	自注(工 は)1X間省の計画	成績· 表彰	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5	-5	-5	平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務評価点に60点未満がある場合、滅点する
す		衣彩		優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	5	過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
るた			小計			35	35	35	35	35	
ため		専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
の		資格·	資格要件	技術者資格	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定
	照査技術者の評価	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則 1 件とする
_		成績・表彰		業務成績評定	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定
	業務実施体制	業務実施	施体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
	配点の合計	,		•		100	100	100	100	100	
			資格要件	技術者資格	0	6	4	4	3	参加の適否	
		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	7	
		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13	13	8			過去10年間で原則 1 件とする
	管理(主任)技術者の評価		小計	T		20	18	13		20	
技	官理(主任)技術者の評価			業務成績評定	0	25	25	17	17	25	過去4箇年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
析提		成績· 表彰	技術力			-5	-5	-5		-5	平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務評価点に60点未満がある場合、滅点する
案				優良業務表彰等の経験	0	5	5	3			過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
書			小計	T	1	30	30	20	20	30	□大小戏母次数 5.14.4.*********************************
- 1	担当技術者の評価	資格· 実績	資格要件	技術者資格	Δ		2		2		国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術者 として配置する場合に評価する
Ē.		1	次+2 再 /4	++ 年 - 本 次 - 协	^		2	3	2		크리크 # 35 TL 15 N 큐 LS + フ # 35 I = 크리스
する			資格要件	技術者資格	Δ			3	2		設計業務及び必要がある業務に設定
ව ∤-		資格・	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ			I	1		設計業務及び必要がある業務に設定 設計業務及び必要がある業務に設定
んめ	照査技術者の評価	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ			3	3		過去10年間で原則1件とする
カ			小計	•	•			7	6		
基		成績·	技術力	業務成績評定	Δ			10	10		設計業務及び必要がある業務に設定
隼		表彰	小計					10	10		
j	実施方針・実施フロー・工程計	画・その	也		0	50	50	50	50	50	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
j	特定テーマに関する技術提案				0	100	100	100	100	100	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
j	参考見積り	参考見種	責の妥当性		0	参加の可否	参加の可否	参加の可否	参加の可否	参加の可否	
	配点の合計					200	200	200	200	200	

※特定テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。 なお、特定テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

簡易公募型(拡大型)プロポーザル方式の標準的な評価点

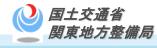


簡易公募型(拡大型)プロポーザル方式

						[±	:木関係コンサルタ	ント業務、地質調	査】		
	評価項目		詳細項目	 評価の着目点	必須:〇	照査技術	う者なし	照査技術	析者有り	【測量】	備考
	計画項目		计侧块口	計画の有日点	選択:△	担当技術者なし	担当技術者あり	担当技術者なし	担当技術者あり	【 州里】	C° BRU
技	企業の評価		資格要件	技術部門登録	Δ					参加の適否	測量業者登録がある(測量の場合)
術	正来の計画	実績	業務経験	業務実績	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	過去10年間で実務経験を有する
す提			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
る案た書	管理(主任)技術者の評価	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
か提		専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
の出		資格·	資格要件	技術者資格	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定
基者準を	照査技術者の評価		業務経験	同種・類似業務の実績	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則1件とする
選		成績・表彰	技術力	業務成績評定	Δ			参加の適否	参加の適否		設計業務及び必要がある業務に設定
定	業務実施体制	業務実施	6体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
			資格要件	技術者資格	0	6	4	4	3	参加の適否	
			継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	7	
		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13	13	8	8	13	過去10年間で原則1件とする
			小計			20	18	13	12	20	
技	管理(主任)技術者の評価					25	25	17	17	25	過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
術提		成績· 表彰	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5	-5	-5	平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務評価点に60点未満がある場合、減点する
案		衣彩		優良業務表彰等の経験	0	5	5	3	3	5	過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
書			小計			30	30	20	20	30	
を特	担当技術者の評価	資格· 実績	資格要件	技術者資格	Δ		2		2		国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術者として配置する場合に評価する
定		夫賴					2		2		
す			資格要件	技術者資格	Δ			3	2		設計業務及び必要がある業務に設定
る		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ			1	1		設計業務及び必要がある業務に設定
ため	照査技術者の評価	-1-1-	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ			3	3		設計業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則1件とする
の			小計					7	6		
基		成績·	技術力	業務成績評定	Δ			10	10		設計業務及び必要がある業務に設定
準		表彰	小計					10	10		
	実施方針・実施フロー・工程計画	画・その作	也		0	50	50	50	50	50	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
	特定テーマに関する技術提案				0	100	100	100	100	100	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
	参考見積り	参考見積	も の妥当性		0	参加の可否	参加の可否	参加の可否	参加の可否	参加の可否	
	配点の合計					200	200	200	200	200	

※特定テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。 なお、特定テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

簡易公募型(拡大型)プロポーザル方式(実積要件緩和型)の標準的な評価点

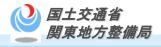


簡易公募型(拡大型)プロポーザル方式(実績要件緩和型)

						[±	-木関係コンサルタ	ント業務、地質調	査】	
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:〇	照査技術	が者なし	照査技術	析者有り	備考
	計順項目		計 神境日	一日 八四 行	選択:△	担当技術者なし	担当技術者あり	担当技術者なし	担当技術者あり	ин °¬
技術	企業の評価	資格· 実績	業務経験	技術的経験	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	過去10年間の特定テーマの技術提案を裏付ける技術的経験がある
提			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
案		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	_					評価項目として設定しない
た書め提	管理(主任)技術者の評価	実績	業務経験	技術的経験	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	過去10年間の特定テーマの技術提案を裏付ける技術的経験がある
の出基者		專任制 		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
準を		資格·	資格要件	技術者資格	Δ			参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
選定	照査技術者の評価	実績	業務経験	技術的経験	Δ			参加の適否	参加の適否	過去10年間の特定テーマの技術提案を裏付ける技術的経験がある
す		成績・表彰		業務成績評定	Δ			参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
る	業務実施体制	業務実施	E体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
			資格要件	技術者資格	_	6	6	6	6	
			継続教育取組実績	CPDの取得状況	_					評価項目として設定しない
技		実績	業務経験	技術的経験	_	14	14	14	14	特定テーマの技術提案を裏付ける技術的経験がある
術			小計			20	20	20	20	
提案	管理(主任)技術者の評価			業務成績評定	_	25	25	25	25	過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
書を		成績· 表彰	技術力	来4万从6克 T AC		-5	-5	-5	-5	平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務評価点に60点未満がある場合、滅点する
特定		衣彰		優良業務表彰等の経験	_	5	5	5	5	過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
す			小計			30	30	30	30	
る	担当技術者の評価	頁恰 中/#	資格要件	技術者資格	_		参加の適否		参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
た		資格·	資格要件	技術者資格	Δ			参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
め	照査技術者の評価	実績	業務経験	技術的経験	Δ			参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
の #	######################################			業務成績評定	Δ			参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
基準	実施方針・実施フロー・工程計画・その他				0	50	50	50		ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
华	特定テーマに関する技術提案 参考見積り 参考見積の妥当性				0	100	100	100		ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
	2 330 100 7	参考見模	間の妥当性		0	参加の可否	参加の可否	参加の可否	参加の可否	
	配点の合計					200	200	200	200	

※特定テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。 なお、特定テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

(簡易)公募型総合評価落札方式【標準型1:3】の標準的な評価点



総	合評価落札方式(標準	<u> </u>					r + +	- PE / Z \	サルタントi	# 3/r +u fif:	田木1			F ≳Bi	量]	T
							照査技術		リルダントョ	未伤、 心貝;		析者あり		L /A!	里』	1
					N. GE . O	JULTERAL AZ //L			+ ++ /= //- 	Jul TERAL AZ /JL			+ * t= 1. +	地理的条	地理的条	
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	遊損:○	地理的条件	を数値化 し	心理的架件 る場合	- を数11211.9	型理的条件 ない場合	を数値化し	心理的条件 る場合	を数値にす	件を数値	件を数値	備考
						担当技術 者なし	担当技術 者あり	担当技術 者なし	担当技術 者あり	担当技術 者なし	担当技術 者あり	担当技術 者なし	担当技術 者あり	化しない 場合	化 しする 場合	
			資格要件	技術部門登録 (地域貢献度設定なし)	0	3 (5)	3 (5)	3	3	3 (5)	3 (5)	3	3	参加の適否	参加の適否	
			業務経験	同種・類似業務の実績 (地域貢献度設定なし)	0	6 (10)	6 (10)	6	6	6 (10)	6 (10)	6	6	9 (15)	9	過去10年間で原則1件とする
		資格· 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	Δ			3 (6)	3 (6)			3 (6)	3 (6)		3 (6)	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。
	企業の評価			地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	6 (0)	6 (0)	3 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	3 (0)	3 (0)	6 (0)	3 (0)	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
入			小計	•		15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
札参		成績·	技術力	業務成績評定	0	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
加		表彰	לל ניור אד	優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	過去2箇年度(R4·R5)を対象とする。
者		1X平2	小計			35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
を			資格要件	技術者資格	0	4	4	4	4	4	4	4	4	参加の適否	参加の適否	
指		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	1	1	1	1	5	5	
名		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	過去10年間で原則1件とする
す			小計			15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
る	管理(主任)技術者の					30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
ための	評価	成績· 表彰	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5			-5	評価点に60点未満がある場合、減点する
基		22.47		優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	5	5	5			5	過去4箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
進			小計	-		35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
Ι.		専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否		参加の適否	参加の適否	
			資格要件	技術者資格	Δ					参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否			設計業務及び必要がある業務に設定
	照査技術者の評価	資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否			設計業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則 1 件とする
		D. Colo	小計	Divise to deserve						6.1 - 10-10-	6.1 - 10-10-	61 - 1	(1.1 - 1st-sec			20.21 #275 71 of N 72 10 to 7 #275 (- 20.45
		成績· 表彰	技術力	業務成績評定	Δ					参加の適合	参加の適否	参加の適否	参加の適否			設計業務及び必要がある業務に設定
	W 75 -5 15 / L 4-4	201.40	小計			(a.) - 1-t	for the same	6.1 - 10-	(1.1 - 1 1.1	6.1 - 10.00	6.1 - 10-10-	61 - 1	(1.1 - 1st-se		(1.1 - 1.1 m)	
	業務実施体制	美粉夷胤	5体制の妥当性		0	参加の適否			参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否				
-	配点の合計		No. 1 6 1/1	11 /6 36 15		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		New 1 Ga	資格要件	技術者資格	0	6	4	6	4	4	3	4	3	参加の適合	参加の適否	
		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1 1 0	1.0	1	10	1	1	1	1	/	/	N2-10-F92-F911-11-7
		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13		13		8	8	8	8	13		過去10年間で原則1件とする
	管理(主任)技術者の		小計	Т	<u> </u>	20	18	20	18	13	12	13			20	
技	評価			米 來出傳記中		25	25	25	25	17	17	17	17	25	25	過去 4 箇年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
浙		成績·	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務 評価点に60点未満がある場合、減点する
点		表彰		優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	3	3	3	3	5	5	計画点にOU点末週かのる場合、減点する 過去4箇年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
を			小計	収以不切以刊サツ性駅		30	30	30	30	20	20	20	20	·		
算				I.,		30	30	30	30	20	20	20		30	30	■ 国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術
出	担当技術者の評価	資格·	資格要件	技術者資格	Δ		2		2		2		2			者として配置する場合に評価する
す		実績					2		2		2		2			
るた			資格要件	技術者資格	Δ					3	2	3	2			設計業務及び必要がある業務に設定
か		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ					1	1	1	1			設計業務及び必要がある業務に設定
の基	照査技術者の評価	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					3	3	3	3			設計業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則 1 件とする
進			小計							7	6	7	6			
		成績・	技術力	業務成績評定	Δ					10	10	10	10			設計業務及び必要がある業務に設定
ľ		表彰	小計							10	10	10	10			
ľ																
ľ	実施方針・実施フロー		画・その他		0	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
ľ	実施方針・実施フロー 評価テーマに関する技術	工程計画	画・その他		0	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100	50 100		ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する

[※] 評価テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。 なお、評価テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

【標準型1:3(技術者評価重視型)】の標準的な評価点【土木コンサル】



総合評価落札方式(標準<u>型)(技術者評価重視型)土木コンサル</u> 【土木関係コンサルタント業務】 備考 照香技術者なし 照査技術者あり 必須:〇 評価項目 詳細項目 評価の着目点 選択:△ 地理的条件を数値化しない場合 地理的条件を数値化する場合 地理的条件を数値化しない場合 地理的条件を数値化する場合 担当技術者あり 担当技術者なし 担当技術者なし 担当技術者あり 担当技術者なし 資格要件 0 3 3 3 (地域貢献度設定なし) (5) (5) (5) (5) 同種・類似業務の実績 6 6 業務経験 6 6 6 過去10年間で原則1件とする (地域貢献度設定なし (10)(10)(10)(10)資格 地理的条件 規模の小さい業務は本店又は支店の有無に 実績 (6) (6) (6) (地域貢献度設定なし) (6) より数値化する 地域性 企業の評価 地域貢献度 過去5年間に災害活動を証明する交付を受 Δ (地域貢献度設定なし) (0) (0) (0)(0) (0) (0) (0) (0)けている場合に評価する。 **/**≅+ 15 業務成績評定 30 30 30 技術力 成績 優良業務表彰等の経験 表彰 0 43 4 4 3 資格要件 技術者資格 4 継続教育取組実績 CPDの取得状況 0 資格 実績 業務経験 10 10 10 10 同種・類似業務の実績 10 過去10年間で原則1件とする 15 15 15 30 30 30 管理(主任)技術者の評価 平均評点が60点以上あるが過去1年間完 業務成績評定 0 成績 技術力 -5 -5 -5 -5 了した業務の業務評価点に60点未満があ 表彰 る場合、減点する 優良業務表彰等の経験 5 過去 4 簡年度 (R2・R3・R4・R5) を対象とす 0 5 5 専任制 手持ち業務量 参加の適否 資格要件 技術者資格 Δ 参加の適否 参加の適否 設計業務及び必要がある業務に設定 設計業務及び必要がある業務に設定 資格 業務経験 同種・類似業務の実績 参加の適否 参加の適否 Δ 参加の適否 参加の適否 過去10年間で原則1件とする 照査技術者の評価 成績 技術力 業務成績評定 Δ 参加の適否 参加の適否 参加の適否 参加の適否 設計業務及び必要がある業務に設定 表彰 小計 業務実施体制の妥当性 0 参加の適否 参加の適否 配点の合計 技術者資格 0 資格要件 CPDの取得状況 0 資格 業務経験 0 13 13 13 8 8 同種・類似業務の実績 8 過去10年間で原則1件とする 宝績 若手技術者 若手技術者 /計 管理(主任)技術者の評価 75 67 平均評点が60点以上あるが過去1年間完 業務成績評定 0 成績 技術力 -5 -5 -5 -5 -5 了した業務の業務評価点に60点未満があ 表彰 る場合、減点する 優良業務表彰等の経験 5 5 \計 国交省登録資格の対象業務で該当する資格 保有者を担当技術者として配置する場合に 資格 資格要件 技術者資格 Δ 担当技術者の評価 評価する。 宝结

Δ

Λ

0

100

100

100

100

資格要件

業務経験

技術力

小計

資格

実績

成績·

表彰

照査技術者の評価

実施方針・実施フロー・工程計画

評価テーマに関する技術提案

継続教育取組実績

技術者資格

業務成績評定

CPDの取得状況

同種・類似業務の実績

2 設計業務及び必要がある業務に設定

1 設計業務及び必要がある業務に設定

10 設計業務及び必要がある業務に設定

3 10年間で原則1件とする

10

100

100

100

100

設計業務及び必要がある業務に設定、過去

[※] 評価テーマに対する技術提案は求めない。 技術提案(実施方針)に関するヒアリングを省略することができる。

(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1】の標準的な評価点【土木コンサル、地質調査】



総合評価落札方式(簡易	<u>易型)土</u>	木コンサル・地質調																			,
				'	<u> </u>			WW sto 11			【土木関係	パコンサルタ	タント業務、地	也質調査】		WW -4-11					1
				1,	<u> </u>			照査技術									術者あり				_
評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△	-0-	也理的条件を数値					数値化する場合				枚値化しない場合				数値化する場合		備考
				迭折・ム	21 1 10 10	術者なし	若手技術		若手技術		若手技術		若手技術		若手技術		若手技術		若手技術		_
				'	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	担当技術者	
	+-	T,	技術部門登録	+	3	3	3	3	- 8 0	- 277	-8.0	80.7	3	3	3	3	-a-C	0//	-8.0	-2.7	+
		資格要件	(地域貢献度設定なし)	0	(5)	(5)	(5)	(5)	3	3	3	3	I(<u>5</u>)	(5)	(5)	(5)	3	3	3	3	
		業務経験	同種・類似業務の実績	0	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	過去10年間で原則1件とする
		果彻在駅	(地域貢献度設定なし)		(10)	(10)	(10)	(10)	_ ° '	, o	_ ° _ '	, o	(10)	(10)	(10)	(10)		<u> </u>	1 0	0	
				'		4		4	4 '	1 '	1	1 "		A TOP			4 !	1	1	1	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。
	-40.14		地理的条件	Δ		4		4	4 3 1	1 3 1	1 3 I	3		4	4		4 3 1	1 3 1	1 3 1	3	1
	資格· 実績		(地域貢献度設定なし)			4		4	(6)	(6)	(6)	(6)			A TOTAL OF THE PARTY		(6)	(6)	(6)	(6)	
企業の評価	夫祿	地域性		'					4'	'							4!	<u> </u>	<u> </u>		
企業の評価				T	ſ '	Ţ J	,	1 1	1 '	1 '	1 1	()	1 1	į – J	1 L	1 1	1 '	1 1	1 1	ī	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場
			地域貢献度	Δ	6	6	6	6	1 3 1	3	3 1	1 3 1	1 6	6	1 6 J	6	3 1	3	3		合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
			(地域貢献度設定なし)	△ .	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	1
[살]					L'		''	'	L'	'		'					L'		L'		
[친]	L	小計			15	5 15	15	15	15	15	15	15	15		15	15		15			á
参 tn	ob 4書,		業務成績評定	0	30		30	0 30	0 30	30	30	30			30	30		30			
来	成績· 表彰	技術リノ	優良業務表彰等の経験	0	5	0	5	ا <u>5</u>	ا ⁵	. 5	5	5	5 5	, ,	. 5	5	0	5 5	5		5 過去 2 箇年度(R 4 · R 5)を対象とする。
е Б	3×4v	小計	·		35	5 35	35	5 35	5 35	35	5 35		35		35	35		35			á
指	\top	資格要件	技術者資格	0	4	. 4	4	ا4ا	·141	4	4 4	4	1 4	4	4	4	4'	1 4			4
名		継続教育取組実績	CPDの取得状況	Ō		1	<u> </u>	الك	\Box				.[]			=	'لــــــــــــــــــــــــــــــــــــ				
क	資格·	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	0 10	10	0 10	0 10	/ <u>10</u>	0 10	10	10	10	10	10	0 10	10	10	<u>1</u> ۲	0 過去10年間で原則 1 件とする
8	実績	若手技術者	若手技術者	Δ			4 — 7 '	,[,		4 7 7	.i — -'			4 7	.ı — -,"	,		4 - 7 ·	,I	7 若手技術者を配置する場合、加点する。
た :			右于汉明白				<u>'</u> '				ائسسه	—— ["] "			السله	— <u> </u>			4		
め 管理 (主任) 技術者の評	.#	小計	4		15'	5 15	22	. 221	151	15	221	22	10			2 22		15			2
の価基				1 ,	30	0 30	25	5 25	5 30	30	0 25	25	30	30	25	25	5 30	30	25	5 25	
進	成績・	技術力	業務成績評定	0	_F'	-5 []]	-5	ا ₅ ۔ ا	√l -e¹	ا _ع ۔ ا	J -5 ¹	.l _5 ^l	·I -5	.l _5	.f _5l	-5	-5 ¹	-5	5 -5	-r	▼均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務
=	表彰	12 112 23		 '	 	نِــــ	'جــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	نِــــ		─ ''	نِــــ	←	نِـــ	نِــــ	آ	_					9 評価点に60点未満がある場合、減点する
	1		優良業務表彰等の経験	0	1 2	5 5	31	1 3	+ 3	1 2/	1 3	31	3 5	, ,	1 3)	3	0	5 5	9	, ,	3 過去 4 箇年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
		小計	1	-	30	0.0	281	28)	30)	301	28	281	00	, 00	28)	28		35			4
 	専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適合	参加の適合	参加の適否	参加の適合	参加の適否	参加の適合	参加の適否	参加の適否	参加の適合	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適合	参加の適否	参加の適合	
		資格要件	技術者資格	Δ		4	4	4	4	4	4		参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がある業務に設定
	資格·	-	+	+										$\overline{}$	\longrightarrow	$\overline{}$	$\overline{}$	$\overline{}$	+		設計業務及び必要がある業務に設定
照査技術者の評価	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ		4	4	4	4	4	4		参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	設計業務及び必要がめる業務に設定 過去10年間で原則1件とする
	L																				22.112.122.1107.0
L	以模 ·	技術力	業務成績評定	Δ														参加の適否		参加の適否	
業務実施体制	業務実	関施体制の妥当性		0						参加の適否	参加の適否								参加の適否	+	
配点の合計					100	0 100	100	0 100	0 100	100	100	100	100	100	100	100		100	100	100	J _
	T	資格要件	技術者資格	0	6'	4	6'	.1 41	_161	4	6I	41	4	31	4	3	, 41	31	. 41	3	3
		継続教育取組実績	CPDの取得状況	0			ı <u>—</u>	الا،	الستاء	'لست.	.[]						الــــــــــــــــــــــــــــــــــــ		الــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	1	
	資格·	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13	3 13	13	3 13	3 13	3 13	3 13	13	3 8	81	1 81	8	. 81	8 ¹	8	٩	8 過去10年間で原則 1 件とする
	実績	#	+	Τ,			'۽ آ،	″ےا۔			اہ ⊐∡	7ء آر			اء ⊿	' _ن ے آل		4	ا ہا	,J	若手技術者を配置する場合、加点する。
#=== /ナバ)仕歩半の町		若手技術者	若手技術者	Δ			a ° 1	1 °F			al °l	1 0,			al °l	1 0 1			4 ⁰i	1	4
管理(主任)技術者の評 価	*	小計		_	20	0 18	28	4 26	20	18	8 28	26	13	. 12	19	18	13	12	2 19	15	Ř
144		7.01	T	T	25	5 25	20	0 20	0 25	5 25	5 20	20	17	17	7 12	12		7 17			2 過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
技	-10.498	11.46.1	業務成績評定	0	 		,					$\overline{}$		-5	1-						平均蛭占が6 ○占以上おるが過去1 年間宝了」た業務の業務
術	成績· 表彰	技術力			-51	5 -5	-51	5 -5	5 -5	5 -5	-01	-01	-5	-5	I1	-5	5 -5	5 -5	5 -5	5 -5	評価点に60点未満がある場合、減点する
点	衣彩		優良業務表彰等の経験	0	5	5ار	2	_121	_[5 ¹	5' <u></u> 5	اار	2	.13	.13	4 2	2 2	. 3	·13 ¹	3 2		2 過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
<u></u>		小計			30	0 30	22	2 22	2 30	30	22	22	2 20	20	14	14	20	20	14	10	4
																				_	国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術
第		I .	1	Ι,		4 k		+		· ·		,		4		T		4		-	A T I I TO THE TO A CONTROL OF THE TOTAL OF
第出出出当時衛者の評価	資格·	資格要件	技術者資格	Δ		2		2		2		2		2		2		2		V 2	2 者として配置する場合に評価する
第出 は す 担当技術者の評価	資格· 実績		技術者資格	Δ		2		2		2		2		2		2		2		\	2 者として配置する場合に評価する
算出す 担当技術者の評価 るた		小計		Δ		2		2		2		2		2		2	,	2	,	2	2
算出す 担当技術者の評価 る た			技術者資格	Δ		2		2	·	2		2	3	2 2 2	3	2 2 2	3	2 2 2	3	2	2 者として配置する場合に評価する 2 2 2 設計業務及び必要がある業務に設定
算出 対 担当技術者の評価 るた めの	実績	小計資格要件	技術者資格	Δ		2		2	2	2	,	2	3	2 2 2	3	2 2 1	3	2 2	3	2	2
算出は当技術者の評価をある。ための基準	実績資格・	小計				2		2	?	2	7	2	3	2 2 2 1	3	2 2 2 1	3	2 2 2	3	2	2 2 2 2 2 2 3 1
る た め の 基 準	実績	小計 資格要件 継続教育取組実績	技術者資格 CPDの取得状況	Δ		2		2	?	2	2	2	3 1	2 2 2 1	3 1	2 2 1	3 1	2 2 1 3	3	2 3 2 1 1	2 2 2 設計業務及び必要がある業務に設定 1 1 設計業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則1
算出 出当するための の基準 照査技術者の評価	実績資格・	小計資格要件	技術者資格	Δ		2		2	?	2	2	2	3 1 3	2 2 2 1 3	3 1 3	2 2 1 3	3 1	2 2 2 1 3	3	2 3 2 1 1	2 2 2 2 2 2 3 1
る た め の 基 準	実績資格・	小計 資格要件 継続教育取組実績	技術者資格 CPDの取得状況	Δ		2		2	2	2	2	2	3 1 3	2 2 2 1 3	3 1 3	2 2 1 3	3 1 3	2 2 1 3	3 1 3	2 3 2 1 1	2 2 2 設計業務及び必要がある業務に設定 1 1 設計業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則1
る た め の 基 準	実績資格・実績	小計 資格要件 継続教育取組実績 業務経験	技術者資格 CPDの取得状況 同種・類似業務の実績	Δ		2		2	2	2	?	2	3 1 3	2 2 2 1 3	3 1 3	2 2 1 3 6	3 1 3	2 2 11 3 3	3 1 3	2 3 2 1 1 3 3	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
る た め の 基 準	実績	小計 資格要件 継統教育取組実績 業務経験	技術者資格 CPDの取得状況	Δ		2		2	2	2		2	3 1 3 7	2 2 3 2 1 3 3 3 6 0	3 1 3 7 10	2 2 3 2 1 3 3 6 6 0 10	3 1 3 7	2 3 2 1 1 3 3 7 6 0 10	2 2 3 1 1 1 3 3 3 6 7 1 0 10	2 3 2 1 1 3 3	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
る た め の 基 準	実績資格・実績	小計 資格要件 継続教育取組実績 業務経験	技術者資格 CPDの取得状況 同種・類似業務の実績	Δ		2		2	2	2		2	2 3 3 1 3 7 10 10 10		3 1 3 7 10	2 2 3 2 1 3 3 7 6 0 10		2 3 2 1 1 3 3 7 6 0 10		2 3 2 1 1 3 3 7 6 0 10	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
る た め の 基 準	実 資実 成表	小計 資格要件 継続教育取組実績 業務経験 小計 技術力	技術者資格 CPDの取得状況 同種・類似業務の実績	Δ	50	2 2	50	2 2 2 0 0 50	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	50	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	2	3 1 3 7 10 10 50	10	10		0 10	10	0 10 0 50	2 3 2 1 1 3 3 7 6 0 10 0 10 0 50	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3 3 3 4 4 5 6 6 6 6 6 6 6 6 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8
るためのの基準開査技術者の評価	実 資実 成表	小計 資格要件 継続教育取組実績 業務経験 小計 技術力	技術者資格 CPDの取得状況 同種・類似業務の実績	Δ Δ Δ	50		50	2 2 2 0 0 50 0 50		2 2 2 0 50 0 50 100				10	10	10	0 10	10	0 10 0 50	2 3 2 1 1 3 3 7 6 0 10 0 10 0 50	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 4 2 3 4 3 4 5 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6

[※] 原則、ヒアリングは実施しない。なお、必要に応じて実施も可能とする。

(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1】の標準的な評価点【測量】



総合	評価落札方式(簡易型)	測量		ı	1		F			
							【測	量】		_
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△	地理的条件を数例	値化しない場合	地理的条件を数	対値化する場合	備考
					ZZIX.Z	若手技術者なし	若手技術者あり	若手技術者なし	若手技術者あり	
			資格要件	技術部門登録	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
			業務経験	同種・類似業務の実績 (地域貢献度設定なし)	0	9 (15)	9 (15)	9	9	過去10年間で原則1件とする
		資格・ 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	Δ			3 (6)	3 (6)	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。 「本店の所在地」を要件とする場合は、設定しない。
	企業の評価			地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	6 (0)	6 (0)	3 (0)	3 (0)	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
			小計			15	15	15	1!	5
入		成績·	技術力	業務成績評定	0	30	30	30	30	D 過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
札		及額· 表彰		優良業務表彰 <mark>等</mark> の経験	0	5		5		5 過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
参		25.47	小計			35		35		5
加者			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
を		<i>20</i> 2 +/2	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	5		5		5
指		資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10		10	1(0 過去10年間で原則1件とする
名		大順	若手技術者	若手技術者	Δ		7			7 若手技術者を配置する場合、加点する。
すっ	管理(主任)技術者の評		小計			15	22	15	2:	2
るた	価					30	25	30	2!	5 過去4箇年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
めの		成績·	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5	-!	5 平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務 評価点に60点未満がある場合、減点する
基		表彰		優良業務表彰等の経験	0	5	3	5	,	3 過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
準			小計			35	28	35	28	8
		専任制	•	手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
		資格·	資格要件	技術者資格	Δ					設計業務及び必要がある業務に設定
		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					設計業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則1件とする
		以領·	技術力	業務成績評定	Δ					設計業務及び必要がある業務に設定
	業務実施体制	業務実施	施体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
	配点の合計	1				100		100	100	0
技			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
術		<i>20</i> 2 +/2	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	7		7		/
点		資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13		13		3 過去10年間で原則1件とする 。若手技術者を配置する場合、加点する。
を算	管理(主任)技術者の評	人们只	若手技術者	若手技術者	Δ		8			8
出土	価		小計	T	1	20	28 20	20 25	25	
する				業務成績評定		25			20	0 <u>過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。</u> - 平均評点が 6 0 点以上あるが過去 1 年間完了した業務の業務
ため		成績· 表彰	技術力			-5	-5	-5	-!	評価点に60点未満がある場合、減点する
<i>め</i>	1		ds =1	優良業務表彰等の経験	0	5		5		2 <u>過去 4 箇年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。</u>
基	B###	-10-1-	小計		_	30	22	30		
準	実施方針・実施フロー・コ	L 程計曲			0	50	50	50		
	配点の合計					100	100	100	100	U .

[※] 原則、ヒアリングは実施しない。なお、必要に応じて実施も可能とする。

(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1(実施能力評価型)】の標準的な評価点【土木コンサル】 (地方整備局



総合評価落札方式(簡易型)((実施能	<u>。力評価型)土木コ</u>)	シサル																		·
,	1			1	<u> </u>			PT -tt-	The same age of		【土木関係 -	係コンサルタン	ノト業務(点	《検業務)】		m de de	The state of the party				_
,	1			1'		·· ·· ·· · / / / / / / / / / / / / / /			技術者なし 出	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· 24 44 9 4 7 1'		+		or said to a said to	照査技術		··· +m+5/4 /4.+	- n. e. n. + 7 /		→
評価項目	1	詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△		地理的条件を数f 支術者なし	数値化しない場		若手技術		を数値化する場合 若手技術		地理 若手技術	地理的条件を数化	数値化しない場: 若手技術		若手技術:		と数値化する場合 ギモは#	場合	備考
,	1																				
,	1			1	担当技術者														者 担当技術者		·
 '	+		11 12 1	 -	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	<u> </u>
,	1 '	資格要件	技術部門登録	0	3 (5)	3 (5)	3 (5)	3 (5)	31	3 21	3 21	3 2 ¹	3 (5)	3 (5)	3 (5)	3 (5)	1 3	31 2 ¹	3 2	3 -	3
·	1 '	X 10.2	(地域貢献度設定なし)	+			(5)		+	+	+	+'	(5)	(5)			$ \longmapsto $	+	+'	+	過去10年間で原則1件とする
1	1 '	業務経験	同種・類似業務の実績 (地域貢献度設定なし)	0	6 (10)	6 (10)	6 (10)	6 (10)	6	J 61	o 61	J 6	6 (10)	6 (10)	6 (10)	6 (10)	I 6	4 6	ó F	ó F	週本 10年间で原則 1十と 9 る
'	1 '		(地域貝獣及政になし)	+	(10)	(10)	(10)	(10)	_	+	+	+'	(10)	(10)	(10)	(10)			+	+	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。
	資格·	1	地理的条件	Δ		4	4	4	3	3	3	3		4	4	4	3	3	3	3	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。 「本店の所在地」を要件とする場合は、設定しない。
	実績	1	(地域貢献度設定なし)	△ ▶		4	4	4	(6)	(6)	(6)	(6)		4	4	4	(6)	(6)	(6)	(6)	「本角の別在地」と女匠とする。のはい、成人とも・・・
企業の評価	1 '	地域性							\leftarrow	+'	+	+					+	+'	+'	+	マナワケ師に《幸工塾と呼叫する姿料の六件を悪けている場
시 '	1 '	1	地域貢献度	Δ	6	6	6	6	3	3	3	3	6	6	6	6	3	3	3	3	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
al '	1 '	· '	(地域貢献度設定なし)		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	日、所でて、大自団大学中ロップ日が、こにはフック。
<i>≱</i> ′	1 ′	小計			1F	5 15	5 15	o 15	ر <u>1</u> 5	5 15	15 15	ر 15	J 15	ع <u>ا</u> 5	ر 15'	عام	5 15	5 15	5 15	15 15	.6
4 '	成績·	技術力	業務成績評定	0	30	30	30	30	0 30	0 30	30 30	0 30	0 30	0 30	0 30	0 30	0 30	0 30	30	30 30	
á ,	及積· 表彰		優良業務表彰等の経験	0	F.	J 5'	J 5'	υ	5 أ	5	J 5	5'	5 '	5′	5′	اح 5	J 51	4 5'	ر 5	oF	5 過去2箇年度(R4·R5)を対象とする。
指		小計			3F	J 35	J 35	J 35	35	35	35 35		35	35	35	35	35	4 35	ع 3F	o 3F	<u>ó</u>
名 業務実施体制		薬施体制の妥当性			参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	<u> </u>
į,		資格要件	技術者資格	0	4	. 4'	41	+ 4	4 41	41	. 4	4	4 3'	3'	3'	4 31	4 31	3'	3,	3 ?	<u> </u>
' اه		継続教育取組実績		0		4 1'	·11'	-11	الستك	4	الصلك	-1'	'اللك	'لــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	'لــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	4	41	'اــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	1'	1	
		業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	4 8'	<u>10'</u>	ا8′	4 101	4 81	8 10	4 8'	46'	46'	4 6'	4 61	461	46'	<u> -</u> 6'		6 過去10年間で原則1件とする
, ا	実績	若手技術者	若手技術者	Δ		4	4 - √	a ,'		4	4 → -	a .	2	4	4 /	∡l - ∠ ^p	4	4	4 '	4	若手技術者を配置する場合、加点する。
<u></u>	1 '		石于IX利·日				4 "				4 ~				47				4 "		<u> </u>
挙 準 管理(主任)技術者の評価	└─ '	小計			1F	5 13	U 21	19	0 10	1,3	13 21		9 10		14	+ 14	10	0 10			• •
/	Ţ.,			Τ,	30	30	30 26	26 26	16 30	0 30	30 26	26	6 20	J 20'	J 18'	18	8 20	0 20	20 18	10	
皮 '	成績·	技術力	業務成績評定	0		.5 -F	.6 -F	.5 -F	6 -F	6 -F	-F	ń -г	ál E [']	5 -F	5 -F	5 -F	ا ₅ ا	.d _F	.5		-5 平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務
	表彰	12 11/2 23	17 to 180 190 to 190 190 to 190 180	+-	+	+'	<u>+'</u>	+'	+	_	+	+'	 '	+'	+'	+-	بب		_	+ '	□ 評価点に60点未満がある場合、減点する
	1 '	小計	優良業務表彰等の経験	0	+ 2	5 35	5 29	2 2	9 35	5 35	35 29	2	9 25	1 2	+ 31	3 3	1 25	5 25	5 21	3 3	3 過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
- 董	専任制		手持ち業務量	0	参加の適否		55 29 5 参加の適否				35 29 至 参加の適否				5 21 を加の適否				21 を 参加の適否		
.ш\	导任时		于持り未務里	+	参加の適当	参加の適当	参加の適当	参加の週刊	参加の知古	参加の週日	参加の返出	参加の返出	参加の適当	参加の適当	参加の適当	参加の速音	参加の適品	参加の適当	参加の週五		国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術
, f	資格·	資格要件	技術者資格			⊿ ∘′	2	4 -	,	4 -	2	⊿ ~'		4 →'		⊿ ∃ ^p		4 →"	1		国文省立鉄貨俗の対象未務で設当する貨俗体有名を担当技術 1 者として配置する場合に評価する
	実績	A IL XII	10.00	· P		4′		4'		4′		4′		4′		4r		4 <i>'</i>		4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0
- u.	Ĺ.,					2	4	2'	4	2"	4	2		1"	1	4		4 1	1	,	<u> </u>
,		資格要件	技術者資格	Δ		4	4	4	4	4	4	4	4'	ام ما	۰,	ار ا	ار ار	ر م	2	, ,	2 設計業務及び必要がある業務に設定
. <u>ú</u> l '	1 '				4	4	4	4	4	4	4	4	4	'ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	'ـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	اتـــــــــــــــــــــــــــــــــــــ	تِــــ	─ ′	 ,	+	<u> </u>
	資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ		4	4	4		4	4		4	+	+	+	+	+	4	4	
	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ		4	4	4	4	4	4	4	4 - 2		4 2	, I	او ا،	al ¹	1 2		設計業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則1 1 件とする
照査技術者の評価	1 '	業務幹帳	同種・類似来劢の大阪	<u> </u>		4	4	4	4	4	4	4	4 "	1 7	1	1 9	1 1	1 9	1	1	件とする
.	1 _ '	小計											4 F	á	4 F	á	4 5	4	4 F	5	4
.	成績·		業務成績評定								4		10			1/	0 10	0 10	1		10 設計業務及び必要がある業務に設定
	成績· 表彰	技術力	業務以續評正	Δ		4	4	4	4	4	4	4			10,	1 10				10 10	10
	衣影	小計					4			4			10	0 10	10'	10	0 10			10	
工程計画・その他				0	100																
配点の合計					200	200	00 200	00 200	0 200	10 200	200	0 200	0 200	0 200	0 200	0 200	0 200	0 200	00 200	200	<u>J</u>

(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1(実施能力評価型)】の標準的な評価点【測量】



総合評価落札方式(簡易型)	(実施能	力評価型)測量							
			,			【測量(水質調査業務	· 交通量調査業務)】	1	
評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△	地理的条件を数値	値化しない場合	地理的条件を数	&値化する場合	備考
				选八 . 厶	若手技術者なし	若手技術者あり	若手技術者なし	若手技術者あり	
入		資格要件	技術部門登録 (地域貢献度設定なし)	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
参 加		業務経験	同種・類似業務の実績 (地域貢献度設定なし)	0	9 (15)	9 (15)	9	9	過去10年間で原則1件とする
治 者 を 指 企業の評価	資格· 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	Δ			3 (6)	3 (6)	規模の小さい業務は本店又は支店の有無により数値化する。 「本店の所在地」を要件とする場合は、設定しない。
名 す			地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	6 (0)	6 (0)	3 (0)	(0)	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
る		小計			15	15	15		1
ため	成績·	技術力	業務成績評定	0	30	30	30		0 過去2箇年度(R4·R5)を対象とする。
	丰彩		優良業務表彰等の経験	0	5]	5	5)		5 過去2箇年度(R4・R5)を対象とする。
りませんした		小計			35				4
基 業務実施体制	業務実施	施体制の妥当性	1	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	<u> </u>
[]		資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	_
技	次妆.	THE PROPERTY OF THE	CPDの取得状況	0	10	5	10	1	- 10 左眼 本 医 叫 1 /4 L ナ 7
技 術	資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10		0 過去10年間で原則1件とする
点を	天限	若手技術者	若手技術者	Δ		7		7	7 若手技術者を配置する場合、加点する。
々 算 管理 (主任)技術者の評価		小計			15	22	15	5 22	
出			,		30	25	30		5 過去4箇年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
す	成績· 表彰	技術力	業務成績評定	0	-5	-5	-5		5 平均評点が60点以上あるが過去1年間完了した業務の業務 評価点に60点未満がある場合、減点する
るため	衣彩		優良業務表彰等の経験	0	5	3	5		3 過去 4 箇年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
		小計			35	28	35	28	
o	専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
基 工程計画・その他				0	100				
準配点の合計					200	200	200	200	<u> </u>

(簡易)公募型総合評価落札方式

【簡易型1:1(実施能力評価拡大型)】の標準的な評価点【土木コンサル、地質調査】



総合	平価落札方式(簡易型)(実施能:	<u>力評価拡大型)土木</u>	:コンサル・地質調査										
								【土木関係	系コンサルタ	ント業務、:	地質調査】			
	· ·				必須:〇		照査技術				照査技術			
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須・○ 選択:△	若手技術	析者なし	若手技術	背者あり	若手技術	析者なし	若手技術	5者あり	備考
					EN. D					担当技術者		担当技術者		
			1			なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	
			資格要件	技術部門登録	0	3	3	3	3	3	3	3	3	
入			業務経験	同種・類似業務の実績	0	9	9	9	9	9	9	9	9	過去10年間で原則1件とする
札参加者	② 企業の評価 百 音 5 6 7 7 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	資格· 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	0	10 (13)	10 (13)	10 (13)	10 (13)	10 (13)	10 (13)	10 (13)	10 (13)	本店又は支店の有無により数値化する。
年を指名				地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	(0)	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
す		W 76-1-14	小計			25			20		25		25	
る業	務実施体制	業務実施	極体制の妥当性 資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
め			継続教育取組実績	IX個有具恰 CPDの取得状況	0	1	1	1	1	1	1	ى 1	<u>ع</u>	
の		Nov. 1 da	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	8	6	4	6	6	4		過去10年間で原則1件とする
基 準 /		資格· 実績	若手技術者	若手技術者	Δ			4	4			2	2	若手技術者を配置する場合、加点する。
技			小計		<u> </u>	15	13	15	13	10	10	10	10	
術占		専任制	1	手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
を算出		資格· 実績	資格要件	技術者資格	Δ		2		2		1		1	国交省登録資格の対象業務で該当する資格保有者を担当技術 者として配置する場合に評価する
す							2		2		1		1	
るた			資格要件	技術者資格	Δ					2	2	2	2	設計業務及び必要がある業務に設定
め		資格·	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ					1	1	1	1	
の 照 基準		実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					2	1	2		設計業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則 1 件とする
			小計	•	•					5	4	5	4	
	程計画·技術的課題	-	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		0	60				60	60		60	
石两	占の合計					100	100	100	100	100	100	100	100	

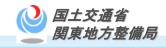
(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1(実施能力評価拡大型)】の標準的な評価点【測量】



総合評価落札方式(簡易型)(実施能力評価拡大型)測量

					N.G.	【測	量】	
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△	若手技術者なし	若手技術者あり	備考
入札			資格要件	技術部門登録	0	参加の適否	参加の適否	
参 加			業務経験	同種・類似業務の実績	0	12	12	過去10年間で原則1件とする
者を指名	企業の評価	資格· 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	0	10 (13)	10 (13)	本店又は支店の有無により数値化する。
するた			地域往	地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	3 (0)		過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
めの			小計			25	25	
基	業務実施体制	業務実施	6体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	
準 /			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	
技術			継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	5	5	
点		資格・	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	5	過去10年間で原則1件とする
を算出	管理(主任)技術者の評価	実績	若手技術者	若手技術者	Δ		5	若手技術者を配置する場合、加点する。
する			小計			15	15	
t:		専任制	·	手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	
めの其	工程計画・技術的課題				0	60	60	
電点の合計						100	100	

(簡易)公募型総合評価落札方式【簡易型1:1(実施能力評価拡大型)】の標準的な評価点【測量】



_総合評価落札方式(簡易型)(実施能力評価拡大型)測量

					N/Œ L O	【測	量】	
	評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:○ 選択:△	若手技術者なし	若手技術者あり	備考
			資格要件	技術部門登録	0	参加の適否	参加の適否	
			業務経験	同種・類似業務の実績	0	12	12	過去10年間で原則1件とする
技術	企業の評価	資格· 実績	地域性	地理的条件 (地域貢献度設定なし)	0	10 (13)	10 (13)	本店又は支店の有無により数値化する。
点を算			地場往	地域貢献度 (地域貢献度設定なし)	Δ	3 (0)		過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
			小計	•		25	25	
出	業務実施体制	業務実施	体制の妥当性	_	0	参加の適否	参加の適否	
すって			資格要件	技術者資格	0	参加の適否	参加の適否	
るた			継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	5	5	
かめ		資格·	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10		過去10年間で原則1件とする
の	管理(主任)技術者の評価	実績	若手技術者	若手技術者	Δ		5	若手技術者を配置する場合、加点する。
基準			小計			15	15	
'		専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	
	工程計画·技術的課題				0	60	60	
	配点の合計					100	100	



4-②「建築関係建設コンサルタント業務」

適用: 令和6年8月1日以降に公示する案件

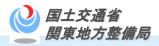


【建築関係建設コンサルタント業務】(建築設計業務)

						■∶必須項	目 =:	評価の重み	*(小項目)	= :	評価の重み(大項目)				
	評価の着目点								> 評価のウ					ⅰ>評価のウΞ		
評価項目			duting this this			欠格有り: ●		(関東地方	を備局営繕部 「。	標準)	欠格有り:●	必須:: O 選択: △	(関東地方	整備局営繕部標準)		備考
			判断基準			加点要素:◎	選択:△		小計	小計	加点要素:◎	選択:△		小計	小計	
				理技術者		0	_		小百	•	0	_		小司	参加条件なので加点しない	
				B-IIXNI I	建築	• ©	Δ	2	1		0	Δ	2			2 MINETT GOVE THEM CO. GO
資格	専門分野の技術	所者資格	各担当分野について、資格の内容を資格評価表により評価 する。		構造	0	Δ	1	1		0	Δ	1			取得資格により評価
			9 So.	主任担当技術者	電気設備	0	Δ	1	18%		0	Δ	1	5%		特殊な施設の場合、技術者のウエイトの重みを変更 する
					機械設備	0	Δ	1	5		0	Δ	1	5		, ,
	平成26年4月1日		次の順で評価する。	管理技術者		•◎	0	6			•◎	0	6			
	は類似業務の実無、携わった立ち		①同種業務の実績がある。		建築	●◎	0	4.5			•◎	0	4.5			過去10年間で原則1件評価
			②類似業務の実績がある	主任担当技術者	構造	•◎	0	1.5			•◎	0	1.5			特殊な施設の場合、技術者のウエイトの重みを変更 する
			上記の他に、実績の立場を次の順で評価する。		電気設備	•◎	0	1.5			•◎	0	1.5			9 W
			◇管理技術者の場合 ①管理技術者又はこれに準ずる立場		機械設備	•◎	0	1.5			●◎	0	1.5			
			②主任担当技術者又はこれに準ずる立場													
			③担当技術者又はこれに準ずる立場													
			◇主任担当技術者の場合													
			①管理技術者、主任担当技術者又はこれに準ずる立場						56%					15%		
			②担当技術者又はこれに準ずる立場						15					15		
	平成31年4月1日		次の内容で評価する。	管理技術者		•◎	Δ	2.6			•◎	Δ	2.6			
	月31日までに契約履行が完了した国土交通省等発注の営繕事業に係る業務の成績評価		①実績の有無		建築	●◎	Δ	2			•◎	Δ	2	_		過去5年間の対象業務(全て)の平均点を評価する
技術力			②業務の成績	主任担当技術者	構造	•◎	Δ	0.8			•◎	Δ	0.8			特殊な施設の場合、技術者のウエイトの重みを変更
					電気設備 機械設備	• © • ©	Δ	0.8	26% 7		•0	Δ	0.8	7%		する
	令和3年4月1日から令和6年3月 31日までに契約履行が完了した		次の内容で評価する。	管理技術者	(茂(株) 江) 開	_	_	0.8			0	Δ	1.2		ł	
			①表彰の有無	日生汉門日	建築	 	_				0	Δ	0.9			
	国土交通省等発 に係る「優良業系		②表彰の立場		構造	+ -	_				0	Δ	0.3			過去3年間の業務の表彰の立場で評価する
	術者表彰」等の語			主任担当技術者	電気設備	-	-				0	Δ	0.3	3%		
					機械設備	-	-				0	Δ	0.3	3		
				管理技術者		_	-				0	Δ	1			
					建築		_				0	Δ	1			
	CPD取得単位		CPD単位取得の状況を評価する	主任担当技術者	構造		_				0	Δ	1			
					電気設備 機械設備		_		ł		0	Δ	1	5% 5		
					(関(棋) (開	_	_			1009		Δ	-	- 3	35%	e e e e e e e e e e e e e e e e e e e
										27					35	
			業務内容、業務背景、手続きの理解が高く、積極性が見られ	る場合に優位に評	価する。											
	業務の理解度及	なび取組意欲									•◎	0	8			
業務実施方針及 び手法																ヒアリングを通じた評価を本項目に反映
(評価にあたって			業務への取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計 し、評価テーマに対する内容を除く。)的確性、独創性、実現											20		ことのことを通じた計画を不満日に及収
は技術提案書の 内容及びヒアリン	業務の実施方針	t	し、計画) 一くに対する内谷を除く。/ 的唯任、独創任、美児	主寺を終口 別〜計1	шу る。						•◎	0	12			
グにより評価を行	評価テーマに		テーマ①について、その的確性(与条件との整合性が取れて	コンスも、年) Xh 会は	(工学的知日										ł	
う。また、評価の	対する技術提		に基づく独創的な提案がされているか等)、実現性(提案内容													
着目点のいずれ かに0点(各委員	案	①	説得力のある提案となっているか等)を考慮して総合的に評	西する。							•◎	0	15			
の平均点)の評価													'	45		ヒアリングを通じた評価を本項目に反映
がある場合は特 定しない。)														"		
ACU/46'0 /	同上	2	テーマ②について、同上							•◎	0	15		65%	6	
	同上	3	テーマ③について、同上								•◎	0	15		65	
					合計				27	27	7		100	100	100	

※評価テーマは3テーマを基本とし、業務内容に応じて減する。

なお、対象案件においては、環境配慮型プロポーザル方式を採用し、評価テーマの一つを環境に係るテーマとする。 ※各評価テーマの評価ウエイトは、テーマの重要度に応じて適切に設定する。



【建築関係建設コンサルタント業務】 (建築改修設計業務)(設備改修設計業務)(積算業務)(工事監理業務)

■:必須項目 :評価の重み(小項目) ■:評価の重み(大項目)

						: 必須項	·	. 計画 07	王07(7)	頃目) ■:評価の重み(大項目)	
評価項目	評価の着目点	判断基準		_	欠格あり: ● 加点のみ: ◎	必須::○ 選択:△		整備局営繕	部標準)	備考	
			管理技術者	1		0			小計	± 10 2 14 +> 0 - 7 to ±1 +> 1>	
			官埋技術有	70.00	•	0	_			参加条件なので加点しない	
		 各担当分野について、資格の内容を資格評価表により評価	建築		0	Δ .	2			取得資格により評価。 主任担当技術者を求めない分野がある場合は、評価ウェートを	
資格	専門分野の技術者資格	する。	主任担当技術者	構造	0	Δ	1			管理技術者及び求める主任担当技術者に割りふる。	
				電気設備	0	Δ	1	9%		小計値は変えず、業務内容により求める各技術者の重みを	
				機械設備	0	Δ	1	5		るものとする。	
	平成26年4月1日以降の同種又 は類似業務の実績(実績の有無	次の順で評価する。	管理技術者		●◎	0	4				
	及び件数、携わった立場	①同種業務の実績がある。		建築	•◎	0	3				
ļ		②類似業務の実績がある	主任担当技術者	構造	•◎	0	2				
ļ		上記の他に、実績の立場を次の順で評価する。		電気設備	•◎	0	2			【主任担当技術者】は、過去10年間で原則1件評価	
	評価対象とする各分担業務分野 の担当技術者数			機械設備	●◎	0	2			主任担当技術者を求めない分野がある場合は、評価ウェートを	
ı İ		①管理技術者又はこれに準ずる立場								管理技術者及び求める主任担当技術者に割りふる。 小計値は変えず、業務内容により求める各技術者の重みを変え	
l l	建築分野:1人	②主任担当技術者又はこれに準ずる立場								るものとする。	
	構造分野:1人 電気設備分野:1人	③担当技術者又はこれに準ずる立場 ◇主任担当技術者の場合									
l l	機械設備分野:1人	◇エロ担当技術者の場合 ①管理技術者、主任担当技術者又はこれに準ずる立場						22%			
	1成1成10以前刀主7.1人	②担当技術者又はこれに準ずる立場						13		ı	
	平成31年4月1日から令和6年3	次の内容で評価する。	管理技術者		•0	Δ	3	13			
	月31日までに契約履行が完了した国土交通省等発注の営繕事業に係る業務の成績評価	①実績の有無	日在汉州日	建築	•0	Δ	2			過去5年間の業務の平均点を評価する主任担当技術者を求めない分野がある場合は、評価ウェートを	
		②業務の成績		構造	•0	Δ	1			■土口担当技術者を求めない方針がめる場合は、計画ウェートを 管理技術者及び求める主任担当技術者に割りふる。	
技術力	美に係る美務の成績評価	SAME MARK	主任担当技術者	電気設備	•◎	Δ	i	14%		小計値は変えず、業務内容により求める各技術者の重みを変え	
				機械設備	•0	Δ	i	8		るものとする。	
	令和3年4月1日から令和6年3月	次の内容で評価する。	管理技術者		0	Δ	0.4		過主管	19. + 0.ケ眼の世界の主义の土根で部位ナフ	
	31日までに契約履行が完了した	①表彰の有無	主任担当技術者	建築	0	Δ	0.4			過去3年間の業務の表彰の立場で評価する 主任担当技術者を求めない分野がある場合は、評価ウェー 管理技術者及び求める主任担当技術者に割りふる。 小計値は変えず、業務内容により求める各技術者の重みを	
	国土交通省等発注の営繕事業 に係る「優良業務表彰又優良技	②表彰の立場		構造	0	Δ	0.4				
	術者表彰」等の評価			電気設備	0	Δ	0.4	3%			
				機械設備	0	Δ	0.4	2		るものとする。	
			管理技術者		0	Δ	1.4				
				建築	0	Δ	1.4			主任担当技術者を求めない分野がある場合は、評価ウェートを 管理技術者及び求める主任担当技術者に割りふる。	
	CPD取得単位	CPD単位取得の状況を評価する	主任担当技術者	構造	0	Δ	1.4			官垤技術有及び水める主ビ担ヨ技術有に制りふる。 小計値は変えず、業務内容により求める各技術者の重みを変え	
			THEFT	電気設備	0	Δ	1.4	12%		るものとする。	
				機械設備	0	Δ	1.4	7			
ı l									60%		
类双字长十 4.7		类效由应压扩散效比量 工体不用的以合力 特达地 1/2021	。 7.相人に原仕に続け	二十 7	ļ				35		
業務実施方針及 び手法 (評価にあたって は技術資料の内	業務の理解度	業務内容及び業務背景、手続の理解が高く、積極性が見られ	いる場合に愛位に評価	⊞ 9 බං	0	0	8	8		杜佐洛州亦到辞内帝/	
容により総合的に	業務の実施方針	業務への取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計 独創性、実現性等を総合的に評価する。	上の配慮事項等につ	いて、的確性、	0	0	12	12	35% 20		
賃上げの実施に関	する評価	1				Δ	3	3	5%	「従業員への賃金引上げ計画の表明書」を入札参加者から提出を受けたことをもって評価する。	
				合計			58	58	58		



4-3「補償関係コンサルタント業務」

適用: 令和6年8月1日以降に公示する案件

(簡易)公募型プロポーザル方式の標準的な評価点



【補償関係コンサルタント業務】

				必須:〇	「結償っ、	v#11.	タント業務】	-1	
評価項目		詳細項目	評価の着目点	選択:△	照査技術者なし	7970	照査技術者有り		備考
		資格要件	技術部門登録	0	参加の適否		参加の適否		ı
		業務経験	同種・類似業務の実績	0	9/1107/25 [15		1.5	過去10年間で原則1件とする
	資格・実績		地理的条件	_		13		10	
		地域性 小計	地柱的米件	-	_	1 0	_	15	評価項目として設定しない
企業の評価		7]16]				15 30			18 + 0.18 f & (D.4. DE) + 14 & L + 7
		++ 445 -+-	業務成績評点	0		5		_	過去2過年度(R4·R5)を対象とする。
支	成績・表彰	技術力	優良業務表彰等の経験		44.5**	5	44.07	0	過去2過年度(R4・R5)を対象とする。
桁		/ /\計	技術力	0	参加の適否	0.5	参加の適否	0.5	
₹			11 /6 22 38 16			35		35	
R .		資格要件	技術者資格	0		4		4	
	資格·実績	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0		1		1	
E ∐		業務経験	同種・類似業務の実績	0		10		_	過去10年間で原則1件とする
*		小計	T	_		15		15	<u> </u>
を 主任技術者の評価			314 7/r -12 //sh 2.77 -			30			過去4過年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
選	15 Am	技術力	業務成績評点	0		-5		-5	過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満がある場合にはまする。
定 す	成績・表彰		原 ウ 米 水 士 シ ゲ の 収 恥			5		г	合、減点する 過去4過年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
5		小計	優良業務表彰等の経験	0		35		35	適去4週年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
ž	± / τ / υ	/J\aT	7.14.1. # 27.E		44.57	30		30	
b	専任制	Ma 14 //	手持ち業務量	0	参加の適否		参加の適否	_	
2		資格要件	技術者資格	Δ			参加の適否		物件調査業務及び必要がある業務に設定
	資格·実績		同種・類似業務の実績	Δ			参加の適否		物件調査業務及び必要がある業務に設定 過去10年間で原則1件とする
照査技術者の評価		小計							
	成績・表彰	技術力	業務成績評点	Δ			参加の適否		物件調査業務及び必要がある業務に設定
	从順 32年2	小計							I
担当技術者の評価	資格・実績	資格要件	技術者資格	Δ	参加の適否		参加の適否		用地測量業務又は用地測量業務を含む場合に設定
業務実施体制	業務実施体制	の妥当性		0	参加の適否		参加の適否		1
配点の合計						100	1	100	I
		資格要件	技術者資格	0		6		4	
	201 to 101 to 101	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0		1		1	
	資格·実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0		13		8	過去10年間で原則1件とする
.		小計				20		13	
支付を対象を対象を						25		17	過去4過年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
	成績・表彰	技術力	業務成績評点	0		-5			過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満がある場合、減点する
<u> </u>	八州 公平		優良業務表彰等の経験	0		5		_	日、M&A デ る 過去4過年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
		小計	and the second second second second			30		20	
寺		資格要件	技術者資格	Δ					設計業務及び必要がある業務に設定
Ė		継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ					設計業務及び必要がある業務に設定
# 3	資格·実績								物件調査業務及び必要がある業務に設定
a 照査技術者の評価		業務経験	同種・類似業務の実績	Δ				3	過去10年間で原則1件とする
5		小計						7	
	☆ ± ± ≠ ≠	技術力	業務成績評点	Δ				10	物件調査業務及び必要がある業務に設定
.	成績・表彰	小計						10	
				0		50		50	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
≢	 □ - · 工程表 · その他								
ま 実施方針・実施フロ 特定テーマに関する				0		100			ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
実施方針・実施フロ					参加の可否				

[※] 特定テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。なお、特定テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

(簡易)公募型総合評価落札(標準型1:3)の標準的な評価点

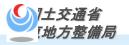


【補償関係コンサルタント業務】

	1								【補償コンサル	レタント業務】				
	,						照査技術	6者なし			照査技術	析者あり		
	評価項目	詳細項目		評価の着目点	必須:○ 選択:△	地理的 な		地理的 あ			的条件 :し		的条件 り	備考
						災害活動 実績なし	災害活動 実績あり	災害活動 実績なし	災害活動 実績あり	災害活動 実績なし	災害活動 実績あり	災害活動 実績なし	災害活動 実績あり	
			資格要件	技術部門登録	0	参加の適否								
	· '		業務経験	同種・類似業務の実績	0	15	9	9	9	15	9	9	9	過去10年間で原則1件とする
	· '	資格·実績		地理的条件	Δ			6	3			6	3	
	企業の評価	英仙 大阪	地域性	地域貢献度	Δ		6		3		6		3	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている 場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
	三乗の評価		小計		_	15	15	15	15	15	15	15	15	
	· '			業務成績評点	0	30	30	30	30	30	30	30		過去2過年度(R4·R5)を対象とする。
λ	,	成績・表彰	技術力	優良業務表彰 <mark>等</mark> の経験	0	5	5	5	5	5	5	5		過去2過年度(R4·R5)を対象とする。
札	! !	20,70		技術力	0	参加の適否								
参		ļ	小計	In a second		35	35	35	35	35	35	35	35	
加	! !	1	資格要件	技術者資格	0	4	4	4	4	4	4	4	4	
者	, ,	資格·実績	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	1	1	1	1	N2 4.0 522 522 4 (4 - 1 - 1 - 2
を	· '		業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10	10	10	10	10		過去10年間で原則1件とする
指夕	· '		小計	 		15	15	15	15	15	15	15	15	
급	主任技術者の評価			** 75 ch 4±50 b	0	30	30	30	30	30	30	30		過去 4 過年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
るた		成績・表彰	技術力	業務成績評点	0	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満が ある場合、滅点する 過去4過年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
め	,		小計	優良業務表彰等の経験	0	35	35	35	35	35	35	35	35	
の	,	専任制	7)'6	手持ち業務量	0	参加の適否								
基		サロリ	資格要件	技術者資格	Δ	参加の適合	参加の適合	参加の適合	参加の適合	参加の適否	参加の適否	参加の適否		物件調査業務及び必要がある業務に設定
华	 	資格・実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	物件業務及び必要がある業務に設定過去10年間で原則1件とする
	照査技術者の評価		小計	•	•									222.0 103 0 / 107 0
	,	-b/+ ++/	技術力	業務成績評点	Δ					参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	物件調査業務及び必要がある業務に設定
	,	成績・表彰	小計											
	担当技術者の評価	成績・表彰	資格要件	技術者資格		参加の適否	用地測量業務又は用地測量業務を含む場合に設定							
	担当技術者の評価 成績·表彰 資格要件 技術者資格 △ 業務実施体制 業務実施体制の妥当性 ○					参加の適否								
	配点の合計					100	100	100	100	100	100	100	100	
			資格要件	技術者資格	0	6	6	6	6	4	4	4	4	
	, ,	資格·実績	継続教育取組実績	CPDの取得状況	0	1	1	1	1	1	1	1	1	
	! !	貝俗·天碩	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13	13	13	13	8	8	8	8	過去10年間で原則1件とする
抹	管理(主任)技術者の		小計			20	20	20	20	13	13	13	13	
術	評価			L		25	25	25	25	17	17	17		過去4過年度(R2·R3·R4·R5)を対象とする。
点			技術力	業務成績評点	0	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満が
を	! !	成績・表彰		/= + W == + + / + - / = = /		3		-	_		-	-	-	ある場合、減点する
算	! !	1	J. 51	優良業務表彰等の経験	0	5	5	5	5	3	3	3		過去4過年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
出		1	小計	TILL OF the Meritin		30	30	30	30	20	20	20	20	塩温本米双豆ぴの再だも7米双口記 点
9 2	! !	1	資格要件	技術者資格	Δ					3	3	3		物件調査業務及び必要がある業務に設定
つ ナ-	, ,	資格·実績	継続教育取組実績	CPDの取得状況	Δ					1	1	1		物件調査業務及び必要がある業務に設定
かめの	照査技術者の評価	貝俗・天碩	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ					3	3	3		物件調査業務及び必要がある業務に設定、過去10年間で原則1件とする
基	, ,			类 效此德亚占						10	10	10	10	 物件調査業務及び必要がある業務に設定
準	! !	成績・表彰	技術力	業務成績評点	Δ					10	10	10	10	炒汁剛且未伤以い必安かのる耒務に設定
ĺ	実施方針・実施フロー・	. 丁担主 . エ .			0	50	50	50	50	50	50	50		 ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
ĺ	実施万町・美施フロー・ 評価テーマに関する技術		/ IB		0	100	100	100	100	100	100	100		ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
	配点の合計	(I) 1)E#			. 0	200	200	200	200	200	200	200	200	
	교내자 오 다 리					200	200	200	200	200	200	200	200	1

[※] 特定テーマについては、1テーマを基本とし、業務内容に応じテーマを追加する。なお、特定テーマを複数求めた場合は、テーマ間の整合性についても評価する。

(簡易)公募型総合評価落札(簡易型1:1)の標準的な評価点



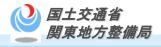
【補償関係コンサルタント業務】

												【補償コンサル	レタント業務】								
								照査技術	忻者なし							照査技術	忻者あり				
						III. TO AL	Ar III de 1			III. TIM ALL A	- M 1			Int. TIM 45- 4	e or de l			14. TM 46.4	te de de 11		備考
						地埋的:	条件なし			地理的第	ミ忤めり			地理的多	*件なし			地埋的!	条件あり		
評価項目		詳細項目	評価の着目点	必須:〇																	
				選択∶△	災害活動実績		災害活動実績なし		災害活動実績		災害活動実績		災害活動実績	災害活動実績		災害活動実績	災害活動実績 なし	災害活動実績	災害活動実績 なし	災害活動実績	
					なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり	
					若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	若手技術者	
					なし	なし	あり	あり	なし	なし	あり	あり	なし	なし	あり	あり	なし	なし	あり	あり	
		資格要件	技術部門登録	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
		業務経験	同種・類似業務の実績	Ô	15		15	9	9	9	9	9	15	9	15	9	9	9	9		過去10年間で原則1件とする
	資格·		地理的条件	Δ					6	3	6	3					6	3	6	3	
	実績	地域性	地域貢献度	Δ				6		3		3		6		6		3		3	過去5年間に災害活動を証明する資料の交付を受けている
企業の評価			75 W SC 1910.X					Ü								, and		ı			場合、併せて、災害協定締結の有無を評価する。
		小計	and the land desired to	_	15	15	15	30	15	15	30	15	15	30	15	15	15	15	15 30	15	WT 0 WEST (D.C. DE) 4-14-1-1-7
	-2-4	++ 4= +-	業務成績評点 優良業務表彰等の経験	0	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	過去 2 過年度 (R4・R5) を対象とする。 過去 2 過年度 (R4・R5) を対象とする。
	成績・ 表彰	技術力	技術力	0	参加の適否	会 to 小海不	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の液不	参加の適否	かtnの楽不	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の楽不	参加の著不	参加の適否	かtnの楽不	週去 2 週年度 (R4・R3) を対象 2 9 ℃。
入	34.40	小計	1X1017J		参加の過音 35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
札		資格要件	技術者資格	0	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
		継続教育取組実績		Ö	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
出	資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	過去10年間で原則1件とする
ě	大领	若手技術者	若手技術者	Δ			7	7			7	7			7	7			7	7	若手技術者を配置する場合加点する。
指主任技術者の		小計			15	15	22	22	15	15	22	22	15	15	22	22	15	15	22	22	
名 評価			業務成績評点	0	30	30	25	25	30	30	25	25	30	30	25	25	30	30	25	25	過去 4 過年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
9 A	成績·	技術力	果務风順計品	0	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満が ある場合、減点する
t ₌	表彰		優良業務表彰等の経験	0	5	5	3	3	5	5	3	3	5	5	3	3	5	5	3	3	過去 4 過年度 (R2 · R3 · R4 · R5) を対象とする。
め		小計	acacacacaca a reacac	Ĭ	35	35	28	28	35	35	28	28	35	35	28	28	35	35	28	28	
の #	専任制		手持ち業務量	0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
進	380.40	資格要件	技術者資格	Δ									参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	物件調査業務及び必要がある業務に設定
	資格· 実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ									参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	物件業務及び必要がある業務に設定
照査技術者の 評価	夫順	小計																			過去10年間で原則1件とする
DT IM	成績·		業務成績評点	Δ									参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	物件調査業務及び必要がある業務に設定
	表彰	小計	proposition and										2 //4 1 / 2	2 //4 22 (1)	2 774 - 7 2 11	27/417/21	2 38 1 2 2	2 /24 1 /2 12	2 //4 12 /2 /2	2 //4 1 / 2	
担当技術者の	成績·																				用地測量業務又は用地測量業務を含む場合に設定
評価	表彰	資格要件	技術者資格	Δ	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
業務実施体制	業務実施	施体制の妥当性		0	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	参加の適否	
配点の合計					100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		資格要件	技術者資格	0	6	6	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4	4	4	4	4	
	資格·	継続教育取組実績		0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	0	13	13	13	13	13	13	13	13	8	8	8	8	8	8	8		過去10年間で原則1件とする
技管理(主任)技		若手技術者 小計	若手技術者		20	20	28	28	20	0.0	28	8	10	13	19	10	13	10	19		若手技術者を配置する場合加点する。
術者の評価	-	/J\aT			25			28		25	28		17	17		19	17		12		過去 4 過年度 (R2·R3·R4·R5) を対象とする。
点			業務成績評点	0	20	20	20	- 20	- 20	- 20	- 20	- 20	- 17	- 17	12	12			12		過去1年間完了した業務の技術者評点に60点未満が
算	成績· 表彰	技術力		_	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	-5	ある場合、減点する
出	衣彫		優良業務表彰等の経験	0	5	5	2	2	5	5	2	2	3	3	2	2	3	3	2	2	過去4過年度(R2・R3・R4・R5)を対象とする。
す		小計			30	30	22	22	30	30	22	22	20	20	14	14	20	20	14	14	
f-	1	資格要件	技術者資格	Δ									3	3	3	3	3	3	3	3	物件調査業務及び必要がある業務に設定
b	資格·		CPDの取得状況	Δ									1	1	1	1	1	1	1	1	物件調査業務及び必要がある業務に設定 物件調査業務及び必要がある業務に設定、過去10年間
の 照査技術者	実績	業務経験	同種・類似業務の実績	Δ									3	3	3	3	3	3	3	3	初行調査業務及び必要がある業務に設定、適去10年间 で原則1件とする
基の評価	L	小計	·	•									7	7	7	7	7	7	7	7	
7	成績・	技術力	業務成績評点	Δ									10	10	10	10	10	10	10	10	物件調査業務及び必要がある業務に設定
l	表彰	小計											10	10	10	10	10		10	10	
実施方針・実施	フロー・	工程表・その他		0	50		50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50		50	50	ヒアリングを通じた評価を本項目に反映する
配点の合計					100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	

[※] 原則、ヒアリングは実施しない。なお、必要に応じて実施も可能とする。



5. 実施状況データ整理集



建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況

- ○建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況(5業種)
 - ・不調・不落の発生件数はR3年度まで増加傾向であったが、R4年度以降は横ばいとなっている。
- 〇建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況(業種別)
 - ・5業種区分(土木コンサル、測量、地質、建築コンサル、補償コンサル)のうち、令和4年度までは 土木コンサルが約7割を占めている。令和5年度においては建築コンサルが5割を占めている。

5-2 品質確保対策の実施状況

建設コンサルタント業務における低入落札状況

- 〇低入札発生状況
 - ・令和4年度以降の低入落札は発生していない
- 〇落札率
 - ・ 土木コンサル、測量、地質について、平均落札率は概ね横ばい。

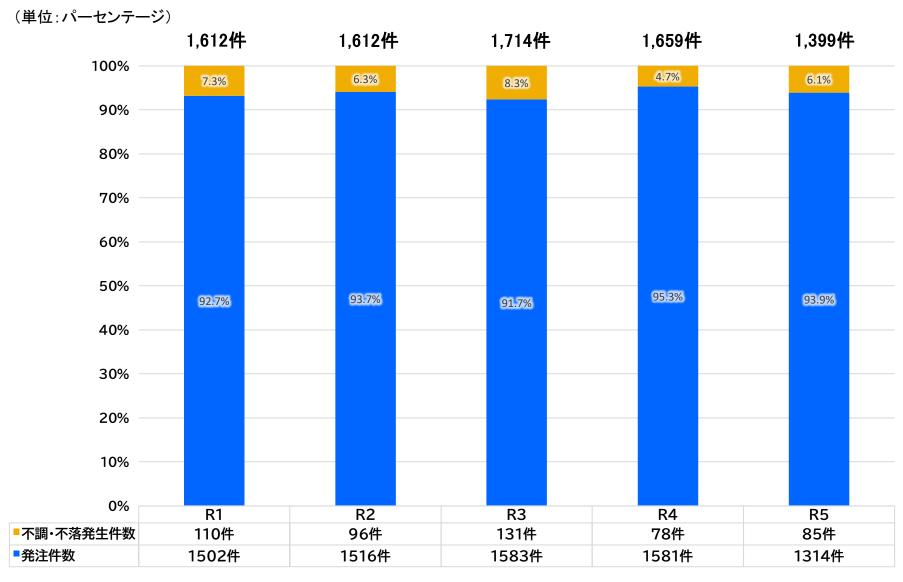
業務成績評定点の分布状況

- ○業務成績評定点の推移
 - 業務成績評定点は土木コン、地質、測量共に上昇傾向(R4年度平均点 土木コン:78.6点(+0.2)、測量:78.5点(+0.3)、地質:78.9点(+0.3))

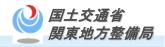
5-1)建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況(5業種)



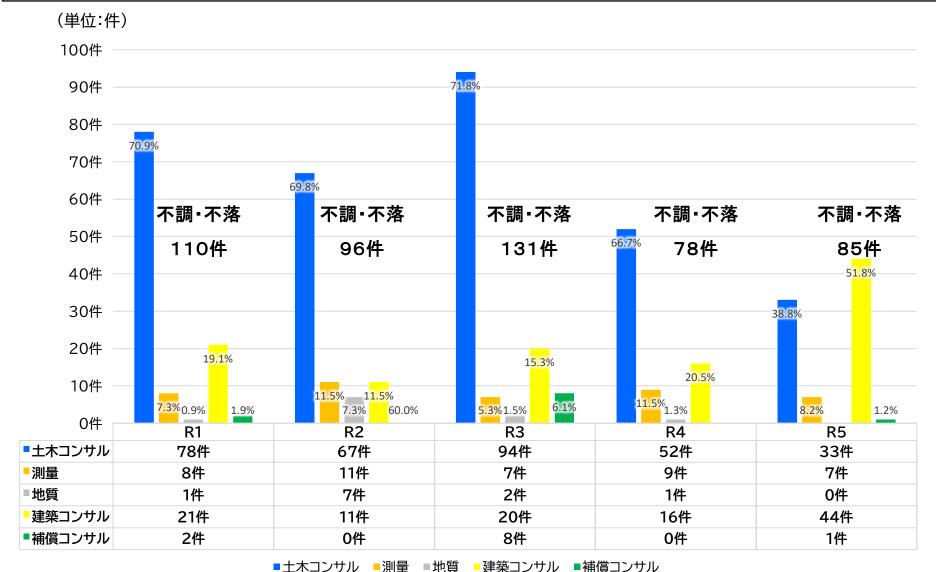
〇不調・不落の発生件数はR3年度まで増加傾向であったが、R4年度以降は横ばいとなっている。



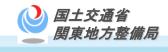
5-1)建設コンサルタント業務等の不調・不落発生状況(業種別)



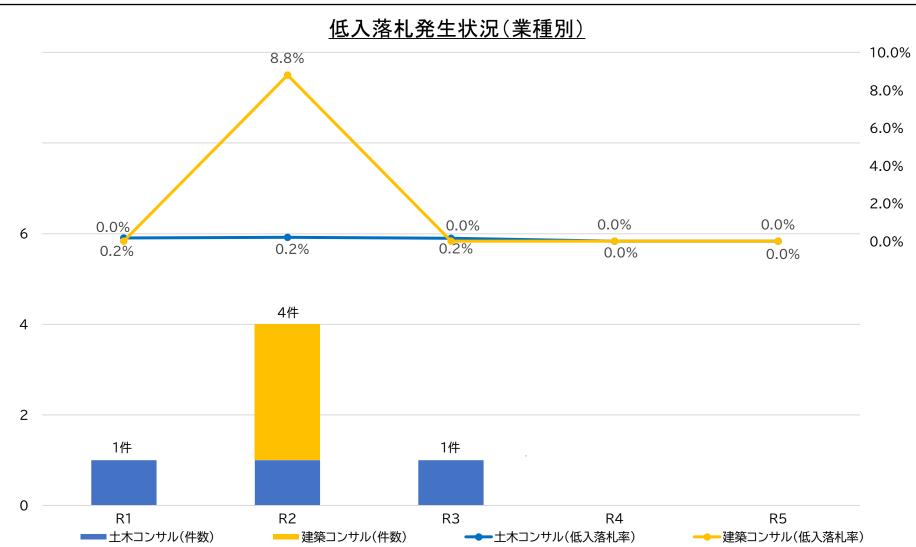
○5業種区分(土木コンサル、測量、地質、建築コンサル、補償コンサル)のうち、令和4年度までは土 木コンサルが約7割を占めている。令和5年度においては建築コンサルが5割を占めている。



5-②建設コンサルタント業務等(5業種)の低入札状況



○低入落札は令和4年度以降は、全ての業種で発生していない。

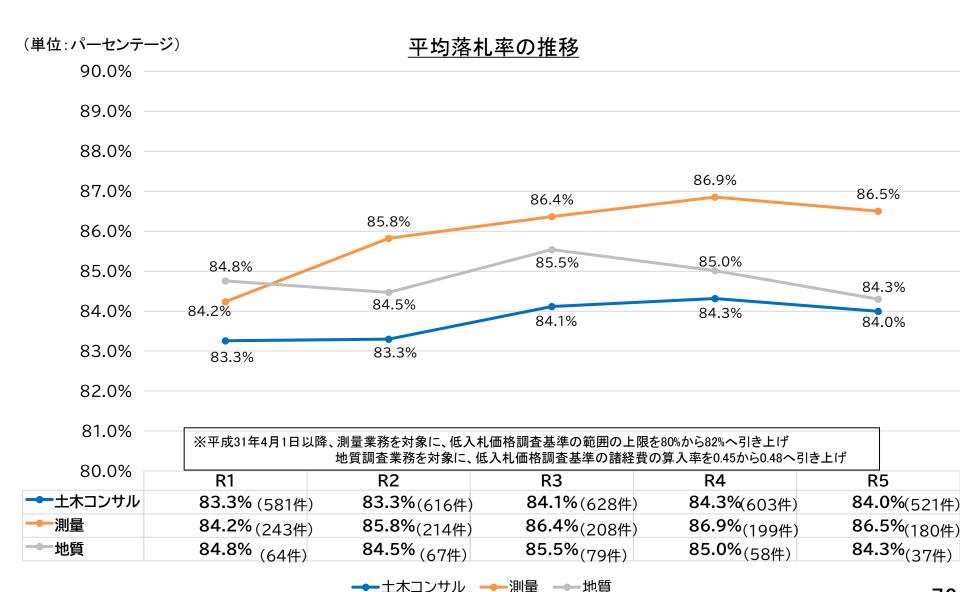


※予定価格100万円を超える価格競争入札及び総合評価落札方式のみ(単価契約を除く)。港湾空港を除く。R1~R4年度は3月末時点。R5年度は、12月末時点 ※低入落札件数:予定価格1.000万円を超える業務については、調査基準価格を下回って契約した業務

5-②建設コンサルタント業務等(3業種)の落札率の状況

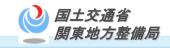


○土木コンサル、測量、地質の平均落札率は、概ね横ばい。

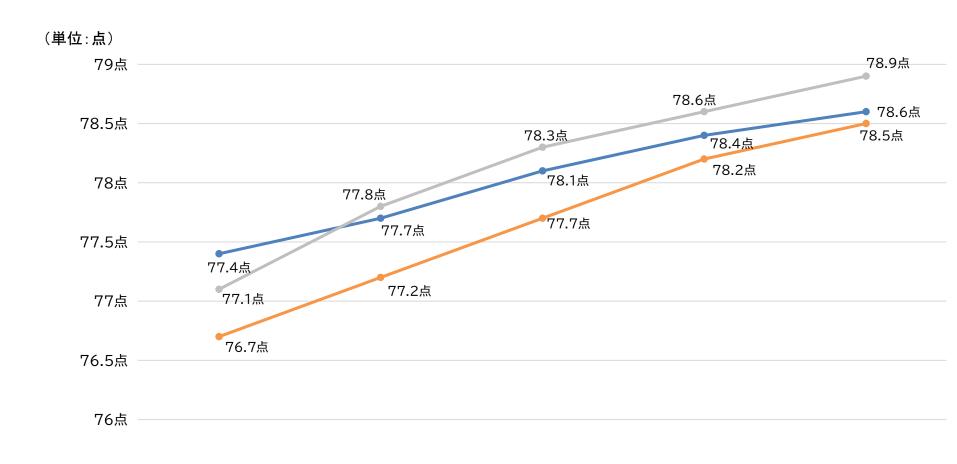


[※]予定価格100万円を超える価格競争入札及び総合評価落札方式のみ(単価契約を除く)。港湾空港を除く。R1~R4年度は3月末時点。R5年度は、11月末時点

5-②業務成績評定点(3業種別)平均の推移



○業務成績評定点の3業種別の平均は、年々上昇傾向である。

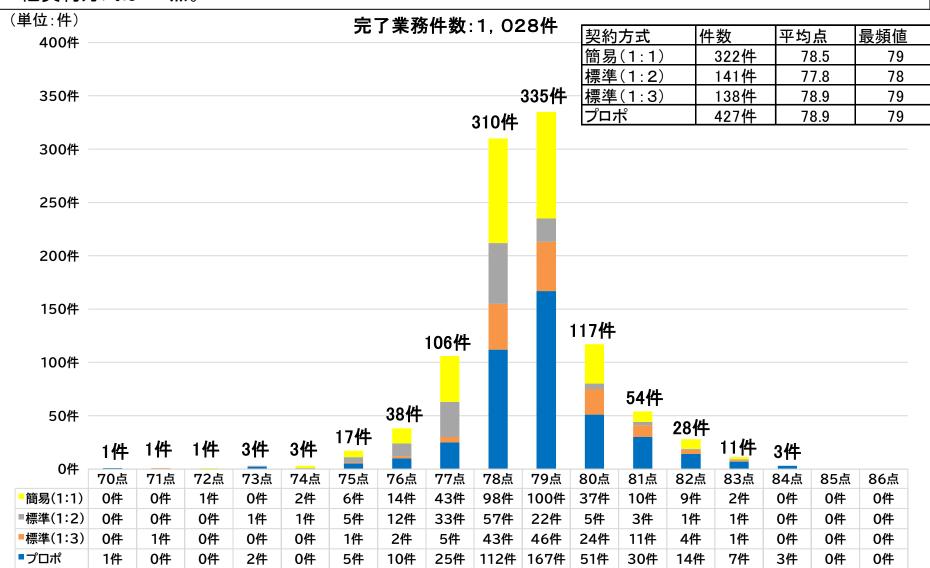


75.5点	H30	R1	R2	R3	R4
─ 土木コンサル	77.4点(866件)	77.7点(905件)	78.1点(963件)	78.4点1,044件)	78.6点1,028件)
→測量	76.7点(201件)	77.2点(227件)	77.7点(221件)	78.2点(213件)	78.5点(190件)
──地質	77.1点(69件)	77.8点(68件)	78.3点(75件)	78.6点(83件)	78.9点(66件)

5-②令和4年度完了業務における業務成績評定点の分布状況(土木コン)



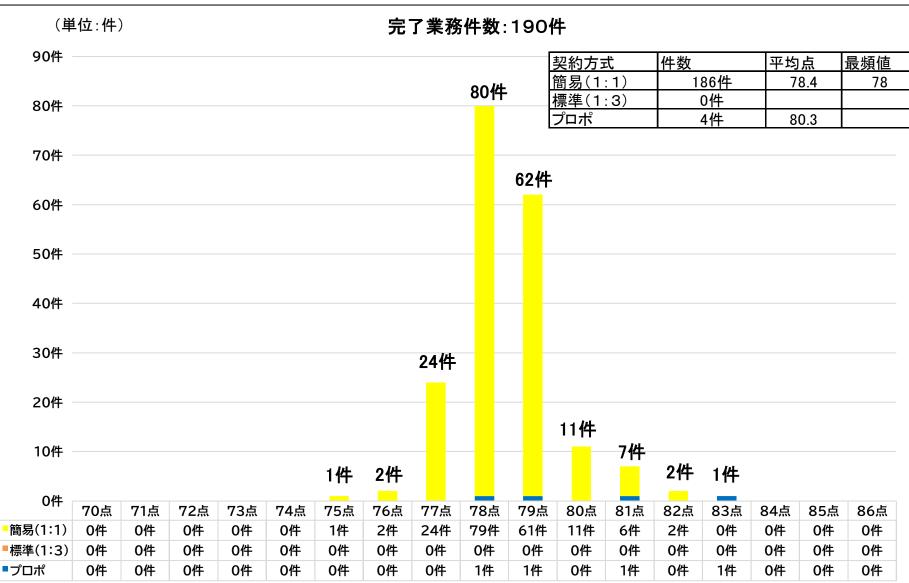
〇令和4年度完了業務における業務成績評定点の最頻値は、総合評価落札方式(標準型1:2)は78点、その他契約方式は79点。



5-2 令和4年度完了業務における業務成績評定点の分布状況(測量)



〇令和4年度完了業務は、簡易型(1:1)の業務が大部分を占めており、最頻値は78点となっている。



5-2 令和4年度完了業務における業務成績評定点の分布状況(地質)



〇令和4年度完了業務は、簡易型(1:1)の業務が大部分を占めており、最頻値は79点となっている。

